



Infor LN 財務会計 現預金管理 ユーザガイド

重要事項

本書に含まれる資料（あらゆる補足情報を含む）は、Inforの機密及び専有情報に相当し、かつそれを含むものです。

添付を使用するにあたり、使用者は、当該資料（当該資料のあらゆる修正、翻訳または翻案を含む）、すべての著作権、企業秘密、及びそれに関係するすべてのその他権利、権原及び利益はInforが独占所有するものであり、使用者には、別の契約（この別契約の契約条項によって、貴社の当該資料及びすべての関連する補足情報の使用が規定されます）に基づいてInforより貴社に使用許諾されたソフトウェアに関連し、またその使用を促進することのみを目的（以下、「目的」という）として、当該資料を使用するための非独占的権利以外、使用者の閲覧に基づく権利、権原及び利益（すべての修正、翻訳または翻案を含む）は付与されるものではないことを認識し、それに同意するものとします。

更に、同封の資料を使用するにあたり、使用者は、使用者が当該資料を極秘扱いで保管しなければならないこと、そして使用者の当該資料の使用は上述の「目的」に限定されることを認識し、それに同意するものとします。Inforは、本書に含まれる内容に誤りや洩れがないよう細心の注意を払っていますが、本書に含まれる内容が完全なもので、誤植やその他の誤りがなく、使用者の個別の要望を満たすことは保証しません。したがって、Inforは、本書（あらゆる補足情報を含む）の誤りまたは不備により、またはそれに関連して生じたあらゆる個人または団体に対する、あらゆる間接的または直接的損失または損害について、その誤りまたは不備が過失、事故またはその他の理由によるものであるかどうかにかかわらず、一切の責任を負わず、かつそれを放棄するものとします。

使用者の本資料の使用は、米国輸出管理法及びその他に限定しない輸出入の適用法に準拠するものとし、使用者は、本資料及びあらゆる関係資料または補足情報を当該法律に違反して、直接的または間接的に輸出または再輸出してはならず、またこれらの資料を当該法律により禁止されるいかなる目的にも使用してはなりません。

商標確認

ここに示す文字標章及び図形標章は、Infor及び/またはその関連会社ならびに子会社の商標または登録商標、あるいはその両方です。無断複製・転載を禁ず。参照されるすべての他の社名、製品名、商標名またはサービス名は各所有者の登録商標または商標です。

発行情報

文書コード	tfcmgug (U9463)
リリース	10.5.1 (10.5.1)
発行日	2017 年 12 月 19 日

目次

文書情報

第1章 概要.....	11
概要.....	11
第2章 現預金管理の設定.....	13
現預金管理の設定.....	13
銀行予算配分.....	14
銀行予算配分の設定.....	14
現預金管理での支払権限 - 設定.....	15
電子銀行勘定照合表の処理 - 設定.....	16
支払/回収方法.....	16
中間ステップ.....	108
現預金取引に関する伝票の作成.....	19
銀行リレーシヨンの割当.....	20
現預金管理の追加設定.....	20
第3章 自動支払/回収.....	23
支払処理.....	23
前払金/仮払金および貸方票の検索.....	23
自動支払手順.....	24
自動現預金処理への銀行リレーシヨンの割り当て.....	26
中断のない支払処理.....	26
中断のない支払処理を設定するには.....	27
中断のない支払処理を実行するには.....	27
中断のない口座引落処理.....	28
中断のない口座引落処理を設定するには.....	28
自動口座引落を処理するには.....	28
中断のない現預金処理への銀行リレーシヨンの割り当て.....	29
銀行与信のチェック.....	29
第4章 マニュアル回収/支払予定.....	33
マニュアル回収予定.....	33
支払手順.....	33

第5章 前払金または前受金または仮払金/仮受金	35
請求書への仮受金の割当.....	35
第6章 電子銀行勘定照合表.....	37
電子銀行勘定照合表.....	37
電子銀行勘定照合表の自動照合.....	38
照合オプション.....	38
支払オプション.....	39
照合ルール.....	39
例外.....	39
照合処理のおもな手順.....	39
MT940 銀行ファイルの分配.....	40
第7章 受取手形.....	41
手形 - 概要.....	41
受取手形.....	41
請求書の手形への取替.....	41
手形の割引.....	41
手形ステップ.....	42
担保.....	43
裏書.....	43
受取手形を設定して処理するには.....	43
受取手形を処理するには.....	44
手形を裏書するには.....	45
受取手形の生成ルール.....	46
手形の会計転記の前提条件.....	47
手形分割.....	48
事前定義値に基づいた分割データ.....	48
印紙税関税表による分割データ.....	49
第8章 支払手形.....	51
支払手形.....	51
手形ステップ.....	51
支払手形を設定して処理するには.....	52
支払手形を処理するには.....	53

支払手形の生成ルール.....	54
印紙税.....	55
第9章 小切手マスタ.....	57
小切手を使用するには.....	57
第10章 回収確認.....	59
回収確認 - 概要.....	59
複数会社の様相.....	59
回収確認を設定するには.....	60
回収確認を処理するには.....	60
第11章 支払合意.....	61
支払合意の使用.....	61
日本での請求および支払.....	61
支払合意の適用.....	62
交渉済銀行手数料.....	62
標準銀行手数料と交渉済銀行手数料 - 設定.....	63
支払スケジュール - 概要.....	64
回収スケジュール.....	64
支払スケジュール.....	64
支払条件.....	65
出荷に対する回収.....	65
第12章 支払伝票.....	67
支払伝票 - 概要.....	67
販売請求書の支払伝票を設定するには.....	68
販売請求書の支払伝票を処理するには.....	69
販売請求書の支払伝票を作成するには.....	69
支払伝票ベースの回収額を処理するには.....	69
第13章 スタンディングオーダーおよび前受金の払戻.....	71
スタンディングオーダー.....	71
スタンディングオーダーの転記データ.....	71
スタンディングオーダーの作成.....	72
前受金の払戻.....	72

第14章 マニュアル銀行取引.....	75
マニュアル銀行取引.....	75
第15章 ファクタリング.....	77
ファクタリング.....	77
売掛金のファクタリング.....	77
売掛金のファクタリングを設定するには.....	78
買掛金のファクタリングを設定するには.....	79
ファクタリング販売請求書进行处理するには.....	79
償還なしの請求書のファクタリング.....	79
償還なしの個々の請求書のファクタリング.....	80
償還による販売請求書のファクタリング.....	80
ファクタリング - 回収.....	81
ファクタリング会社からの回収.....	81
未割当前払の払戻.....	82
ファクタリング手数料.....	83
第16章 現預金割当.....	85
現預金割当の設定.....	85
現預金割当手順.....	85
第17章 取引先統計.....	89
取引先統計.....	89
第18章 現預金予測.....	91
現預金予測.....	91
現預金予測レポートと問合せ.....	93
期日計算.....	94
期日後の追加日数.....	94
期日計算方法.....	94
即時.....	95
月末.....	95
15 日間の最終日.....	97
10日間の最終日.....	97
週の最終日.....	97

第19章 外貨払レポート.....	99
1099-MISC レポート.....	99
1099-MISC レポートを設定するには.....	99
1099-MISC レポートを実行するには.....	100
第20章 外貨払銀行ファイル.....	101
支払理由.....	101
付録A	103
銀行取引のデフォルト金額.....	103
支払/回収スケジュール.....	103
割引/延滞金利.....	104
許容支払差額.....	105
前払金の分類.....	106
取引タイプの使用.....	107
取引入力セッション.....	107
取引入力デフォルト.....	108
償還によるファクタリング.....	109
ファクタリング会社への請求書の送付.....	109
請求書の清算.....	109
ファクタリング会社への払戻.....	109
償還なしのファクタリング.....	110
レポートグループ.....	111
支払レポートグループ.....	111
回収レポートグループ.....	112
北欧用銀行ファイルのレポートグループ.....	112
手形レポートグループ.....	113
付録B 用語集.....	115

文書情報

この文書では、マスタデータ (支払/入庫方法、銀行リレーション、ユーザ固有の支払権限など) を設定する手順を説明します。電子銀行勘定照合表、評価済入庫決済 (ERS)、スタンディングオーダーの使用についても詳しく説明します。

目的

本書では、現預金管理の設定方法および使用方法を説明します。

予備知識

さまざまな財務会計モジュールの機能に関する基本的な知識があると、この文書の理解が容易になります。

本書の使い方

用語の下線は、用語集の定義へのリンクを示します。下線の付いた用語をクリックして、この文書の最後にある用語集の定義に移動できます。

コメント

弊社は常に文書の見直しや改善を行っていますが、この文書に関するご意見、ご要望などありましたら、documentation@infor.com にご連絡ください。

送信の際には文書番号およびタイトルを明記してください。情報が具体的であるほど迅速な対応が可能です。

Infor へのお問い合わせ

Infor 製品に関するお問い合わせは、Infor Xtreme Support ポータル www.infor.com/inforxtreme をご利用ください。

製品リリースに関する更新情報は、この Web サイトに掲載いたします。このサイトを定期的にご確認ください。

Infor ドキュメントに関するご質問・ご意見は、documentation@infor.com までご連絡ください。まずようお願いいたします。

概要

現預金管理では、すべての現預金取引および銀行取引の処理、顧客の支払行動に関する統計情報の収集、およびキャッシュフロー予測の作成による資金調達要件の分析によって、組織におけるキャッシュフローの管理を行います。

現預金管理を使用する前に、取引先や支払条件など、共通情報でメンテナンスする特定データを設定する必要があります。現預金管理では、パラメータ設定、銀行口座、および支払方法などの静的データをメンテナンスします。

元帳勘定、ディメンションタイプとコード、取引タイプと期間など、すべての会計取引で使用される情報を総勘定元帳に定義する必要があります。売掛金、買掛金、および現預金管理で取引が完了してファイナライズされると、総勘定元帳の金額が更新されます。

現預金管理には次の機能が備えられています。

- 買掛金および現預金管理で支払期限になっている未決済品目を選択して、銀行オーダ、小切手、または電子支払ファイルを作成し、これらの未決済品目を決済することができます。
- スタンディングオーダのメンテナンスおよび支払を、事前定義済のスケジュールに基づいて行うことができます。スタンディングオーダは原価取引または前払金とすることが可能で、後で購買請求書または元帳勘定に関連付けることができます。
- 現預金管理で口座引落オーダを作成し、決済の期限となっている売掛金の未決済品目を選択して決済することができます。
- 電子銀行勘定照合表を受け取ったら、これをインポートし、販売および購買の未決済品目と照合することができます。
- 「1099-MISC」レポートや、アメリカで年度中に作成される特定タイプの支払で使用されるファイルを作成できます。
- 購買請求書、販売請求書、オーダ、および統計情報に基づいてキャッシュフロー予測を作成し、組織の流動性ポジションを評価できます。
- 回収先取引先の支払行動に関する統計 (支払期限超過平均日数や平均支払日数など) を算出できます。

現預金管理の設定

現預金管理を設定するには、次の一連のステップを実行します。

- 現預金管理パラメータの定義
現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションで現預金管理パラメータを定義します。
次の処理にパラメータを設定できます。
 - 支払
 - 口座引落
 - さまざまな現預金管理オプション
 - 次の処理を LN で実行する方法
 - 前払金および前受金
 - 現預金予測
 - 電子銀行勘定照合表
 - ファクタリング
 - 手形
 - DAS 2 レポート
 - 現預金割当
- 銀行ブランチの設定
銀行ブランチ (tfcmg0511m000) セッションで、銀行ブランチ詳細を定義します。
- 銀行リレーシヨンの設定
銀行リレーシヨン (tfcmg0110s000) セッションで、銀行リレーシヨンを定義します。銀行リレーシヨンコード、銀行ブランチコード、通貨、および銀行の口座番号を指定する必要があります。
取引タイプを指定して、選択した銀行リレーシヨンの銀行取引に取引タイプを転記します。
取引タイプを使用して、次の操作を実行できます。
 - 実際の支払のみを転記し、支払予定は転記しない
 - 銀行リレーシヨンに関連付けられた予定伝票の銀行調整
 - 送金通知の転記複数の銀行リレーシヨンを使用する場合、使用できる銀行はいくつかの条件によって決まります。次を参照してください: 銀行予算配分 (ページ 14)

- 支払方法と回収方法
支払/回収方法 (tfcmg0140s000) セッションで、支払方法および回収方法を定義します。支払方法と回収方法を使用して、特定方法の取引を入力したり、LNで作成された銀行ファイル/レポートのタイプおよびフォーマットを入力したりすることができるセッションを定義します。
次を参照してください: 支払/回収方法 (ページ 16)
- 支払権限
さまざまなタイプの支払権限を設定することができます。次を参照してください: 現預金管理での支払権限 - 設定 (ページ 15)
- 電子銀行勘定照合表 (EBS)
電子銀行勘定照合表は、電子銀行勘定照合表の処理 - 設定 (ページ 16)の説明に従って設定することができます。
- 現預金および銀行取引の取引タイプ
現預金取引および銀行取引に、さまざまな取引タイプを設定する必要があります。メインセッションと次のセッションでは、それぞれの取引タイプが異なります。次を参照してください: 現預金取引および銀行取引:

銀行予算配分

複数の銀行リレーションを使用して、銀行ごとに異なる取引条件に個別に合意することができます。

合意可能な条件としては、たとえば次のものが挙げられます。

- 最小の伝票金額
- 最大の伝票金額
- 支払/回収バッチの合計限度額
- バッチ内の構成ラインの最大数
- 各種サービス (たとえば、外国通貨の処理) の銀行手数料

取引にどの銀行を利用するかは、取引条件、銀行手数料、取引通貨、および銀行口座の残高によって異なる場合があります。

銀行予算配分を設定した場合、LN では最大取引額やバッチ内の伝票数などの基準に基づいて、支払または口座引落に銀行リレーションが割り当てられます。取引が複数の銀行リレーションの基準に一致した場合、LN は、優先順位に従って銀行リレーションを割り当てます。

銀行予算配分の設定

銀行予算配分ロジックは、特定の支払方法および回収方法に合わせて設定することができます。

銀行予算配分を設定するには

1. 支払/回収方法 (tfcmg0140s000) セッションで、支払方法または回収方法を定義します。適切なメニューで [支払方法および通貨別銀行優先順位] をクリックします。
2. 支払方法および通貨別銀行優先順位 (tfcmg0121m000) セッションで、支払方法または回収方法と、銀行割当処理の銀行通貨との組合せに応じて、銀行リレーションの優先順位を定義します。

3. 支払方法および通貨別銀行優先順位 (tfcmg0121m000) セッションの適切なメニューで、[支払方法および銀行リレーシオン別割当基準] をクリックします。
4. 支払方法および銀行リレーシオン別割当基準 (tfcmg0122m000) セッションで、LN が、選択された支払方法または回収方法を持つ取引に銀行リレーシオンを割り当てる際に用いる基準を定義します。

現預金管理での支払権限 – 設定

現預金管理では、ユーザに対して次の権限データを設定できます。

- ユーザが支払先取引先に支払うことのできる支払可能限度額
- 非請求書関連の任意払 (たとえば、前払/仮払金、スタンディングオーダ、現預金取引) の支払可能限度額または差額限度額の承認
- 銀行費用金額の支払可能限度額または差額限度額の承認
- ユーザが支払差額取引を作成することの可能な、請求書あたりのプラスおよびマイナスの支払可能限度額
- 支払および口座引落のユーザの種類
- 同一ユーザが作成した支払バッチまたはその他のユーザが作成したバッチの承認権限
- 支払バッチに関してユーザが承認できる限度額
- 承認済ユーザによる支払バッチおよび口座引落バッチの支払差額のデフォルト許容範囲

現預金管理で支払権限を設定するには、支払権限 (tfcmg1100m000) セッションで次のデータを設定します。

1. 権限データ
ユーザが支払先取引先に支払うことができる支払限度額を指定します。
2. 非請求書関連の任意払 (たとえば、前払/仮払金、スタンディングオーダ、現預金取引) の支払可能限度額を指定するか、または [任意払の限度額] チェックボックスをオンにして、任意払を行う差額限度額の承認をできるようにします。
3. 銀行費用に関して支払うことができる支払可能限度額を指定するか、または [銀行費用の限度額] チェックボックスをオンにして、銀行費用を支払う場合の差額限度額の承認をできるようにします。
4. [支払差額の最高額 (+)] フィールドでプラス金額の場合に支払うことができる限度額を指定するか、[支払差額の最高額 (-)] フィールドで支払差額の場合に支払うことができるマイナス限度額を指定するか、または [支払差額の差額限度額の承認] チェックボックスをオンにして、支払差額を支払う場合の差額限度額の承認ができるようにします。
5. 支払および口座引落のユーザの種類を設定します。[支払のユーザの種類] および [口座引落のユーザの種類] の各フィールドで、[通常ユーザ] または [スーパーユーザ] のいずれかを選択します。
6. 支払バッチまたは口座引落バッチに関して、ユーザが承認できる支払可能限度額を指定します。[支払バッチ承認金額] および [口座引落バッチ承認金額] の各フィールドで、金額を指定します。
7. 同一ユーザが作成した支払バッチまたは口座引落バッチ、または他のユーザが作成したバッチを承認する権限を設定します。[口座引落バッチ承認] および [支払バッチ承認] フィールドで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - [すべてのバッチに権限]
 - [他のバッチに権限]

- [自己のバッチに権限]
 - [権限なし]
8. 支払差額許容範囲
支払差額のデフォルト許容範囲の金額または割合を指定します。

注意

支払権限 (tfcmg1100m000) セッションでユーザに支払差額が指定されていない場合は、現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションで設定されているデフォルト値が使用されます。

電子銀行勘定照合表の処理 - 設定

銀行は、実施された支払や回収された口座引落に関する勘定照合表を、紙のレポートではなく電子形式で送ることができます。電子的な手段で受け取った銀行勘定照合表を変換、照合、および転記するには、電子銀行勘定照合表セッションを使用します。

電子銀行勘定照合表処理を設定するには、次の順にセッションを使用します。

1. 銀行リレーション (tfcmg0510m000)
次のフィールドに必須データを入力します。
 - [EBS ファイルのパス]
銀行から受け取った電子銀行ファイルの保存先となる LN のデフォルトディレクトリ
 - [EBS アーカイブのパス]
電子銀行勘定照合表の変換 (tfcmg5202m000) セッションで変換されたオリジナルの電子銀行ファイルの保存先となる LN のデフォルトディレクトリ
2. 現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000)
[テレバンキングの場合の取引日] フィールドで、電子銀行勘定照合表の変換 (tfcmg5202m000) セッションで変換された電子銀行勘定照合表の伝票日付として使用する、日付のタイプを選択します。伝票日付は、銀行勘定照合表が作成された日付、または価値日付のどちらかです。
3. 電子銀行勘定照合表のレコードタイプ (tfcmg5104m000)
銀行勘定照合表ファイルのタイプごとに、格納されるレコードを定義します。レコードごとに、タイプ、開始/終了位置、および各レコードを識別する値を定義する必要があります。
4. 電子銀行勘定照合表の変換データ (tfcmg5105m000)
銀行勘定照合表ファイルのレイアウトを定義します。取引明細を格納するレコードのタイプ、開始/終了位置、およびフィールドの値 (固定値を持つフィールドの場合) は、取引明細ごとに指定する必要があります。たとえば、その取引の支払/受取区分を示すフィールドには、固定値「IN」(先行スペースを含む) または「OUT」のどちらかを指定できます。

支払/回収方法

未決済の購買請求書の支払および未決済の販売請求書の支払の回収を行う方法がいくつかあります。たとえば、小切手、手形、銀行オーダ、支払伝票、自動支払/口座引落などを利用できます。

それぞれの方法で特定の詳細が必要です。これらは支払/回収方法 (tfcmg0140s000) セッションで定義できます。

それぞれの支払方法や回収方法について、次の詳細があります。

- [回収/支払]
発注先への支払または顧客からの回収に、その支払/回収方法を使用するかどうか。顧客への支払は負の回収として、また発注先からの回収は負の支払として表示されます。
- [支払/回収方法の種類]
手形またはマニュアル入力した支払や回収に関する自動支払や口座引落手順で、その支払/回収方法を使用するかどうか
- [支払/回収作成セッション]
自動支払/口座引落手順の間、LN 内のセッションで支払伝票または回収伝票が作成されます。さまざまなセッションおよび支払レポートが、それぞれの支払伝票に必要です。回収と支払のための伝票および順編成ファイルを作成するには、次のようにさまざまなセッションを使用できます。
 - 発注先支払には、支払の振替 (tfcmg1260m000) セッションを使用します。
 - 口座引落には、口座引落の振替 (tfcmg4260s000) セッションを使用します。
 - ドイツでの口座引落には、ディスクット用ドイツの銀行オーダ (借方) の作成 (tfcmg4261s000) セッションを使用します。
 - ドイツでの支払には、ディスクット用ドイツの銀行オーダの作成 (tfcmg1261m000) セッションを使用します。
- XML ファイル
支払/回収方法に対する XML ファイルのパスは、銀行/支払方法別のデータ (tfcmg0145s000) セッションで定義します。XML ファイルのレイアウトを XML 支払/回収レイアウト (tfcmg0524m000) セッションで定義する必要があります。
- 支払レポート
支払および口座引落の処理中に作成する必要がある、追加のレポートまたは ASCII ファイルのタイプ。銀行ファイルは、支払の振替 (tfcmg1260m000) セッションでの支払バッチの処理時に作成されます。
- [追加のレポート]
ディスクット支払や電子的支払を行う場合に作成する必要がある、追加のレポートや ASCII ファイルのタイプ
- [出力タイプ] および [デフォルトレポートデバイス]
支払ファイルを銀行に転送する方法
- [ステップ]
LN で支払伝票や回収伝票に関して実行する必要があるステップ。それぞれのステップについて、LN で伝票状況を更新し、該当する場合には財務会計転記を総勘定元帳に作成します。一部のステップは必須ですが、その他のステップはオプションです。オプションのステップは選択可能です。
- 小切手マスタ
事前採番された手形などの支払伝票を使用する場合、小切手で支払うことができます。それぞれの銀行/支払方法について、使用可能な小切手および使用済小切手を 小切手マスタ に登録します。これは小切手マスタ (tfcmg2115s000) セッションで定義できます。
- 伝票の構成
伝票は、個別の請求書または複数の請求書を対象に作成することができます。

中間ステップ

支払は、手順全体が完了するまでにいくつかの段階を経由します。

支払ステップ

- 支払について、次のステップを使用できます。
 - [手形 (受取)]
 - [手形 (受取/送付)]
 - [手形 (支払)]

[手形 (支払)] ステップは必須であり常に実行されます。

支払に [予定] 状況が必要な場合にのみ、これらのアクションのいずれかまたは両方が実行されます。実際には、[手形 (受取)] ステップは、手形や同様の伝票を転記する場合にしか使用されません。[手形 (受取/送付)] ステップは、小切手や銀行オーダなど、その他の大部分の支払に使用されます。

回収ステップ

回収について、次のステップを使用できます。

- [手形 (取引先承認済)]
- [取立依頼済伝票]
- [手形 (支払)]

[手形 (支払)] ステップは必須であり常に実行されます。

手形ステップ

手形については、多くの中間ステップを使用できます。管理対象とする手形の状況のステップを選択します。たとえば、支払および回収のステップに加えて、次のステップを選択できます。

- [手形担保差入]
- [手形 (裏書)]
- [手形 (割引)]
- [手形 (満期)]
- [手形 (無効)]
- [手形 (清算)]

中間ステップを選択した場合は、支払予定または回収予定が自動的に作成されますが、マニュアルで作成することもできます。一部の中間ステップについては、次のセッションを使用してマニュアルで状況を変更する必要があります。

- 支払予定状況 (tfcmg2512m000)
- 支払予定 (明細) (tfcmg2116s000)
- 回収予定状況 (tfcmg2513m000)
- 回収予定 (明細) (tfcmg2117s000)
- 回収予定 (tfcmg2111s000)
- 支払予定 (tfcmg2110s000)

中間ステップを選択しなかった場合、直ちに売掛金または買掛金の統制勘定に、支払額や回収額が転記されます。これらの支払に対しては調整を行う必要はありません。

財務転記の前提条件

財務会計転記が必要なステップごとに、LN では次の元帳勘定およびディメンションに金額を転記します。

- 売掛金または買掛金で取引先グループに定義した統制勘定
- 次のセッションのいずれかで支払方法に選択した、元帳勘定およびディメンション
 - 銀行/支払方法別のデータ (tfcmg0145s000)
 - 銀行/支払方法別転記データ (tfcmg0146s000)
 - 支払/回収方法別手形転記データ (tfcmg0514m000)

LN では、次の取引に関して財務会計転記を作成します。

- 銀行オーダおよび小切手による支払
- 口座引落および小切手による回収
- 支払手形
- 受取手形

現預金取引に関する伝票の作成

支払伝票は、個別の請求書または複数の請求書を対象に作成することができます。

支払/回収方法 (tfcmg0140s000) セッションでは、次の詳細を設定できます。

- [構成オプション]
支払先取引先ごとに支払の構成方法を定義します。
- [構成処理]
支払伝票あたりの請求書数が限度を超えた場合に LN で実行される処理を定義します。

注意

小口の受取側取引先についての支払構成は作成されません。

[構成オプション]

支払伝票に関する請求書や支払スケジュールラインを構成するには、次のオプションを使用します。

- [請求書]
事前定義済最大数の請求書を、1 枚の支払伝票で支払うことができます。
- [文字]
支払の参照で使用される文字数に基づいて伝票が構成されます。すべての構成済請求書の参照を支払伝票参照に含める必要があります。ただし、銀行オーダの場合、支払参照の出力に使用可能な文字数は限定されています。
- [送金]
各請求書から 1 枚の支払伝票が生成されます。

[請求書] オプションと [文字] オプションでは、1 枚の支払伝票に含めることができる請求書、支払スケジュールライン、または参照文字の数が [構成限度] に示されます。

[構成処理]

構成処理は、選択基準を満たす請求書数または支払スケジュールライン数が 1 枚の支払伝票用に構成できる支払数を超えた場合に LN で実行される処理です。次の構成処理があります。

- [追加]
LN で、同じ構成基準を使用して、同じ支払先取引先に別の支払伝票が作成されます。
- [なし]
上限を超えた場合、支払伝票は作成されません。未決済取引の支払伝票を作成するには、次のいずれかの操作を実行します。
 - 支払方法の構成限度を変更し、支払を再処理します。
 - 支払をマニュアルで作成します。
- [送金]
請求書数/参照文字数が上限を超えると、すべての支払が 1 枚の支払伝票用に構成され、支払済請求書を詳述する送金レターが LN で出力されます。

銀行リレーションの割当

自動支払、中断のない支払、および口座引落手順の実行中には、取引に割当可能な銀行リレーションが LN で検索されます。銀行リレーションが見つからない場合、銀行リレーションをマニュアルで選択する必要があります。

自動手順と中断のない処理とでは、銀行割当処理が異なります。詳細は、次を参照してください。

- 中断のない現預金処理への銀行リレーションの割り当て (ページ 29)
- 自動現預金処理への銀行リレーションの割り当て (ページ 26)

注意

マニュアルでの支払および口座引落の場合は、銀行リレーションの選択、またはデフォルト銀行リレーションの受入を、常にマニュアルで行う必要があります。

現預金管理の追加設定

現預金管理で、次の追加設定を作成する必要があります。

- 銀行/支払方法別のデータ
銀行/支払方法別のデータ (tfcmg0145s000) セッションで、選択した銀行および支払/回収方法のデフォルトを定義します。[支払/回収予定の取引タイプ]、[支払/回収予定元帳勘定]、および [支払/回収ファイルのパス] などの支払方法や回収方法のデフォルト値を定義できます。
- デフォルト自動処理
銀行/支払回収方法によるデフォルトの自動処理 (tfcmg1191m000) セッションで、選択した銀行および支払方法に対して発注先支払のデフォルトを定義します。中断のない支払実行中に、支払処理が停止してユーザ情報が要求されることはなく、このセッションでメンテナンス済のデフォルトが使用されます。これらのデフォルトは、支払/口座引落方法の

処理中にも使用されます。次を参照してください: 中断のない支払処理 (ページ 26) および 支払処理 (ページ 23)

- 控除対象税金コード別転記データ
控除対象税金コード別転記データ (tfcmg0150m000) セッションで、控除を転記する元帳勘定を指定します。それぞれの国別税金コードに対して、控除用の元帳勘定を指定できます。
- 支払タイプ
支払タイプ (tfcmg0504m000) セッションで、北欧の銀行ファイルおよびレポートで使用するコードを定義できます。次を参照してください: 支払理由 (ページ 101)
- 取引連番コード
取引連番コード (tfcmg0513m000) セッションで連番コードを定義し、最後に使用した取引連番および連番管理番号を確認します。選択した銀行に対して銀行ブランチ (tfcmg0511m000) セッションの連番コードを使用できます。
取引連番の使用には、次の 2 つの重要な理由があります。
 - 権限のないデータ変更を防ぐ
 - 支払オーダの重複送信を防ぐ

支払処理

現預金管理での支払請求書の選択および支払バッチの処理は、現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションのパラメータ設定に応じて、承認済ユーザのみに許可されます。

詳細については、現預金管理での支払権限 – 設定 (ページ 15)を参照してください。

この現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションで、権限のあるユーザが支払バッチ処理を承認する必要があるかどうかを指定することができます。[支払バッチ承認] チェックボックスおよび [口座引落バッチ承認] チェックボックスをオンにした場合、支払バッチを処理できるのは権限のあるユーザのみです。支払権限 (tfcmg1100m000) セッションで、権限のあるユーザを定義することができます。

次の自動支払処理を使用することができます。

- 自動支払手順
請求書の選択後は、結果を検証して調整を行うことができます。たとえば、選択された請求書を見直し、変更して、支払を行う前に前払金、仮払金、または貸方票を未決済取引に割り当てることができます。
- 中断のない支払処理
請求書の選択後は、支払処理が「中断のない支払実行」として実行されます。これにより、支払処理を夜間のバッチジョブとして実行できます。この処理では、前払金および仮払金、または貸方票が検索されません。詳細については、中断のない支払処理 (ページ 26)を参照してください。

前払金/仮払金および貸方票の検索

支払の未決済取引を選択すると、未決済取引に適用することの可能な前払金および仮払金、または貸方票が検索されます。警告が表示されるか、伝票が存在する取引先についてのレポートが作成されます。その取引先について使用可能な前払金、仮払金、または貸方票を表示して、未決済取引に割り当てることができます。

複数財務会社の支払

複数財務会社構造の場合、グループ会社のすべての財務会社が検索されます。

現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションで、次のパラメータを設定する必要があります。

- [会社グループによる支払]
このチェックボックスがオンの場合、個々の会社の代わりにグループ会社がすべての支払を行います。
例
 - 会社 A、B、および C がグループ会社 D に所属します。
 - このチェックボックスがオフの場合、支払は、会社 A、B、および C で個別に行うことも、会社 D として行うこともできます。
 - このチェックボックスがオンの場合、会社 A、B、および C に代わって、グループ会社 D としてのみ支払を実行できます。
 - グループ会社は、会社パラメータ (tfgld0503m000) セッションで定義されます。
- [支払用請求書の複数会社選択]
このパラメータが [請求書の選択] または [両方] に設定されている場合、他社でパラメータが次のように設定されているのであれば、その他社からの支払請求書を選択できます。
 - [会社グループによる支払] チェックボックスがオフになっている
 - [支払用請求書の複数会社選択] パラメータが [自己の請求書の選択] または [両方] に設定されている

自動支払手順

自動支払手順を実行するには、次の順にセッションを使用します。

- スタンディングオーダー (tfcmg1510m000)
使用可能な購買請求書のない支払については、スタンディングオーダーを作成することができます。詳細については、スタンディングオーダー (ページ 71)を参照してください。
- 支払請求書の選択 (tfcmg1220m000)
セッションの目的: 買掛金モジュールの未決済取引で支払期日が到来した請求書およびスタンディングオーダーを選択します。

購買請求書および費用請求書が選択されるのは、次の条件が満たされた場合です。
 - 請求書が承認済である
 - [支払の承認] 状況が [Yes] または [適用なし] である
 - 請求書に保留理由がいつさいリンクされていない現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションの [支払に対する未承認の請求書を選択] チェックボックスがオンの場合、未承認の請求書も選択できます。現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) で選択された他のパラメータも請求書の選択に影響する可能性があります。

取引先の未割当前払金と仮払金および貸方票が検索され、そのような伝票が存在する取引先のレポートが自動的に生成されます。支払処理を続行する前に、支払および貸方票を未決済取引に割り当てることができます。

複数の選択基準に基づいて、支払を処理する仮支払バッチを作成します。販売請求書と貸方票を購買請求書で清算できます。
- 支払通知 (tfcmg1609m000)
購買請求書およびスタンディングオーダーの選択を確認し、調整を行います。
たとえば、次のような変更を行うことができます。
 - 銀行詳細または支払方法を変更する

- バッチに支払を追加する
- 個々の支払を削除する
- 支払バッチ全体を削除する

請求書の取引先に未割当前払金および仮払金、または貸方票が存在する場合は、警告が表示されます。適切なメニューの[未割当未決済取引]をクリックして、利用可能な伝票を表示します。

- 支払合意の適用 (tfcmg1230m000)
支払合意を使用する場合、先に支払合意を適用してから支払バッチを処理する必要があります。詳細については、支払合意の使用 (ページ 61)を参照してください。
- 支払の処理 (tfcmg1240m000)
セッションの目的: 現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションで設定された値に従って、支払をバッチに統合します。銀行リレーシジョンの割当 (ページ 20) に説明されているように、各取引の銀行リレーシジョンが検索されます。

関連セッション

現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションの関連パラメータの値に応じて、支払の処理 (tfcmg1240m000) セッションで [構成] をクリックすると、次のセッションが開始されます。

- 支払通知 (tfcmg1509m000) → 支払の銀行の割当 (マニュアル) (tfcmg1251m000)
銀行リレーシジョンを取引に自動的に割り当てることができない場合、支払の銀行の割当 (マニュアル) (tfcmg1251m000) セッションまたは銀行を口座引落にマニュアル割当 (tfcmg4251s000) セッションが自動的に開始されるので、ユーザは取引に使用する銀行リレーシジョンを選択します。
- 支払の監査 (tfcmg1255m000)
このセッションで、支払バッチを検証します。次のデータのチェックと検証が行われます。
 - 支払予定額が、支払権限 (tfcmg1100m000) セッションで承認された支払先取引先および任意払ごとの支払可能限度額を超えるかどうか
 - 全請求書に有効な支払方法が割り当てられているかどうか
 - 外注先取引先からの請求書が、ブロック口座から支払われるかどうか
 - 取引先の銀行口座および住所の詳細
 - 財務取引先グループ
 - 支払方法に対して定義された中間ステップの転記データ
 - 個別払および原価スタンディングオーダー支払の転記データ
 - 銀行リレーシジョン詳細
 - 支払/回収方法 (tfcmg0540m000) セッションで [国際銀行口座必須] チェックボックスがオンの場合、取引先の IBAN。次に XML 支払/回収レイアウト (tfcmg0524m000) セッションで、BIC を表すタグが必須で選択になっていることを前提に、取引先の取引銀行の BIC が監査されます。

検出されたエラーのレポートが出力されます。問題の解決後、支払の処理 (tfcmg1240m000) セッションを実行してください。

支払予定額が承認済の支払可能限度額を超えた場合は、支払通知 (tfcmg1609m000) セッションで調整を行うことができます。

- 送金レターの出力 (tfcmg1270m000)
支払方法で送金レターが必須の場合、送金レターの出力 (tfcmg1270m000) セッションが自動的に開始されます。送金レターには、請求書および個々の支払に関する詳細が記載されます。

自動現預金処理への銀行リレーシヨンの割り当て

取引先のデフォルト銀行を指定すると、そのデフォルト銀行が請求書、前払金、および仮払金に使用されます。ただし、自動支払処理または口座引落手順では、支払通知または口座引落通知のデフォルト銀行を指定変更することもできます。

自動支払処理または口座引落処理では、請求書伝票の[銀行リレーシヨン]フィールドが空の場合、各取引の銀行リレーシヨンが検索されます。この検索順序は次のとおりです。

1. 支払通知ライン (tfcmg1101m000) セッションまたは口座引落通知 (tfcmg4502m000) セッションで選択した銀行リレーシヨン
2. 予算配分処理の結果として生成された銀行リレーシヨン。詳細については、銀行予算配分 (ページ 14) を参照してください。
3. 次の条件を満たす銀行リレーシヨン
 - 銀行通貨は取引通貨と同じです。
 - 銀行の住所のある国は、取引先の住所のある国と同じです。複数の銀行リレーシヨンが見つかった場合、銀行リレーシヨン (tfcmg0110s000) セッションで最高の優先順位が割り当てられた銀行リレーシヨンが選択されます。
4. 取引先の国での銀行リレーシヨン複数の銀行リレーシヨンが見つかった場合、銀行リレーシヨンのうち銀行リレーシヨン (tfcmg0110s000) セッションで最高の優先順位が割り当てられたものが選択されます。
5. 現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションの [支払の銀行リレーシヨン] フィールドまたは [口座引落の銀行リレーシヨン] フィールドで選択された銀行リレーシヨン

銀行リレーシヨンが何も見つからなかった場合、支払の銀行の割当 (マニュアル) (tfcmg1251m000) セッションまたは銀行を口座引落にマニュアル割当 (tfcmg4251s000) セッションが自動的に開始されます。その取引の銀行リレーシヨンは、ユーザによる選択が必須になります。

中断のない支払処理

支払処理をユーザが介入することなく、中断のない支払実行として実行できます。これにより、支払処理を夜間のバッチジョブとして実行できます。

中断のない支払処理では、次のアクションが自動的に実行されます。

- 支払の構成 (支払の処理 (tfcmg1240m000) セッションが未実行の場合)
- 支払バッチに対する銀行の割当
- 支払の監査
- 支払オーダの作成
- 送金レターの出力
- 支払の転記

エラーになっている請求書は現在のバッチから削除され、新しいバッチに登録されます。

中断のない支払処理を設定するには

中断のない支払処理

自動支払を設定するには、次のセッションを使用します。

- デフォルト自動処理 (tfcmg1190m000)
自動処理中に使用されるデフォルト処理値を定義します。適切なメニューから [銀行/支払方法別デフォルト] を選択し、銀行/支払回収方法によるデフォルトの自動処理 (tfcmg1191m000) セッションを開始します。
- 銀行/支払回収方法によるデフォルトの自動処理 (tfcmg1191m000)
デフォルト処理値の各セットごとに、自動処理中に使用されるデフォルト銀行詳細を定義します。
- 現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000)
[選択後の支払処理を有効化] チェックボックスをオンにします。[支払処理デフォルト ID] フィールドで、デフォルト自動処理 (tfcmg1190m000) セッションからデフォルト処理 ID を選択します。
- 支払権限 (tfcmg1100m000)
現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションの [支払バッチ承認] チェックボックスがオンの場合、数人のユーザに支払バッチの承認権限を付与する必要があります。
中断のない支払処理を開始するユーザに支払バッチの承認権限が付与されている場合、そのバッチは自動的に [承認済] に設定されます。

中断のない支払処理を実行するには

中断のない支払処理を開始するには、次のセッションのいずれかを使用します。

- 支払請求書の選択 (tfcmg1220m000)
処理する請求書の基準を入力し、[中断のない支払実行] チェックボックスをオンにします。[支払処理デフォルト ID] フィールドに支払処理 ID を入力するか、デフォルト値をそのまま使用します。次に、[選択] をクリックします。
- 支払の処理 (tfcmg1240m000)
支払請求書の選択 (tfcmg1220m000) セッションの [中断のない支払実行] チェックボックスがオフの場合、このセッションを使用してバッチを構成し、銀行リレーションを入力することができます。現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションの [選択後の支払処理を有効化] チェックボックスがオンの場合、構成済バッチが自動的に処理されます。

注意

支払バッチの処理前に承認が必要な場合は、バッチの承認権限を得なければなりません。バッチは自動的に [承認済] に設定されます。

中断のない支払実行で構成および転記ができなかった取引は、処理完了時に例外エラー (tfcmg1592m000) セッションを使用して表示できます。エラーの解決後、この新しいバッチを処理できます。

「例外エラー (tfcmg192)」テーブルが過剰な領域を占めることを避けるため、例外エラーの削除 (tfcmg1292m000) セッションを定期的に実行することもできます。

中断のない口座引落処理

中断のない口座引落処理を設定するには

自動口座引落を設定するには、次のセッションを使用します。

- デフォルト自動処理 (tfcmg1190m000)
自動処理中に使用されるデフォルト処理値を定義します。適切なメニューの [銀行/支払方法別デフォルト] をクリックして、銀行/支払回収方法によるデフォルトの自動処理 (tfcmg1191m000) セッションを開始します。
- 銀行/支払回収方法によるデフォルトの自動処理 (tfcmg1191m000)
デフォルト処理値の各セットごとに、自動処理中に使用されるデフォルト銀行詳細を定義します。
- 現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000)
[選択後の口座引落処理を有効化] チェックボックスをオンにして、[口座引落処理デフォルト ID] フィールドに値を入力します。
- 支払権限 (tfcmg1100m000)
現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションの [口座引落バッチ承認] チェックボックスをオンにした場合は、数人のユーザに口座引落バッチの承認権限を付与する必要があります。

中断のない口座引落処理を開始したユーザに口座引落バッチの承認権限が付与されている場合は、LN でそのバッチが自動的に「[承認済]」に設定されます。

自動口座引落を処理するには

自動口座引落を処理するには、次の順にセッションを使用します。

1. 口座引落用請求書の選択 (tfcmg4220m000)
[口座引落の自動実行] チェックボックスをオンにします。必要に応じて、[口座引落処理デフォルト ID] フィールドの値を変更します。
処理前に口座引落バッチの承認が必要な場合は、バッチの承認権限を取得します。LN でバッチが自動的に [承認済] に設定されます。
2. 口座引落の処理 (tfcmg4240m000)
口座引落用請求書の選択 (tfcmg4220m000) セッションの [口座引落の自動実行] チェックボックスがオフの場合、このセッションを使用してバッチを構成し、銀行リレーションを入力することができます。現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションの [選択後の口座引落処理を有効化] チェックボックスがオンの場合、構成済バッチが自動的に処理されます。
3. 例外エラー (tfcmg4592m000)
中断のない支払実行で構成および転記ができなかった取引は、処理完了時に例外エラー (tfcmg4592m000) セッションを使用して表示できます。エラーの解決後、この新しいバッチを処理できます。
4. 例外エラーの出力 (tfcmg4492m000)
必要に応じて、処理できなかったバッチラインのレポートを出力します。

「回収の例外エラー (tfcmg492)」テーブルが領域を大量に占有しないように、例外エラーの削除 (tfcmg4292m000) セッションを定期的に行うこともできます。

中断のない現預金処理への銀行リレーシヨンの割り当て

中断のない支払処理または口座引落処理については、取引ごとの銀行リレーシヨンが検索されます。この検索順序は次のとおりです。

1. 支払先取引先 (tccom4124s000) セッションまたは回収先取引先 (tccom4114s000) セッションの [銀行リレーシヨン] フィールドで選択された銀行リレーシヨン
2. 支払通知ライン (tfcmg1101m000) セッションまたは口座引落通知 (tfcmg4502m000) セッションで選択した銀行リレーシヨン
3. 予算配分処理の結果として生成された銀行リレーシヨン。詳細については、銀行予算配分 (ページ 14) を参照してください。
4. 次の条件を満たす銀行リレーシヨン
 - 銀行通貨は取引通貨と同じです。
 - 銀行の住所のある国は、取引先の住所のある国と同じです。
5. 取引先の国での銀行リレーシヨン
6. 本国通貨以外の通貨を使用できる別の国における銀行リレーシヨン
ステップ 3、4 および 5 で、複数の銀行リレーシヨンが見つかった場合、銀行リレーシヨン (tfcmg0110s000) セッションで最高の優先順位が割り当てられた銀行リレーシヨンが選択されます。
7. 銀行/支払回収方法によるデフォルトの自動処理 (tfcmg1191m000) セッションで支払処理または回収処理用に選択された銀行リレーシヨン
8. 現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションの [支払の銀行リレーシヨン] フィールドまたは [口座引落の銀行リレーシヨン] フィールドで選択された銀行リレーシヨン

銀行リレーシヨンが見つからない場合、[銀行リレーシヨン] フィールドが空のままとなり、取引を処理できません。そういった取引は、ユーザがエラーを解決した後で処理することが可能な別のバッチに移動されます。

銀行与信のチェック

銀行与信とは、銀行が便宜を図って提供する方策であり、支払額が支払可能な銀行残高を超える場合でも、支払を行うことができます。支払に利用できる与信の支払可能限度額を、与信限度額と呼びます。

銀行リレーシヨン (tfcmg0510m000) セッションで該当する銀行を選択し、銀行残高の支払可能額を確認する必要があります。この残高には、銀行から供与される与信限度額も含まれます。

銀行リレーシヨン (tfcmg0110s000) セッションの [与信限度額チェック] フィールドで、次のアクションのいずれかを選択します。

- [チェックなし]
- [ユーザに警告]
- [ユーザをブロック]

状況が [チェックなし] 以外の場合、支払プロセス中に次の警告メッセージが表示されます。

- 十分な残高が銀行にありません 与信限度額の使用が開始されます
[与信限度額チェック] フィールドが [ユーザに警告] に設定され、支払額が銀行残高を超えるようになります。与信限度額金額が利用されて、支払プロセスが継続されます。
- 十分な残高が銀行にありません
[与信限度額チェック] フィールドが [ユーザをブロック] に設定され、支払額が [貸方の銀行残高] を超えるようになります。支払プロセスは取り消されます。

銀行リレーションを選択すると、次の処理中に与信限度額を含む銀行残高を確認できます。

- 自動支払
- 支払予定
- 現預金取引または銀行取引

自動支払

自動支払処理では、銀行リレーション (tfcmg0510m000) セッションで次の優先順位を使用して銀行リレーションが選択されます。

- 支払通知ライン (tfcmg1101m000) セッションまたは口座引落通知 (tfcmg4502m000) セッションで定義した銀行リレーション
- 支払の銀行の割当 (tfcmg1250m000) セッションで選択された銀行リレーション
- 予算配分処理の結果として生成された銀行リレーション。詳細については、銀行リレーションの割当 (ページ 20) を参照してください。
- 支払先取引先に定義された銀行リレーション
- 複数の銀行リレーションが見つかった場合、銀行リレーションのうち銀行リレーション (tfcmg0510m000) セッションで最高の優先順位が割り当てられたものが選択されます。
- 支払の監査 (tfcmg1255m000) セッションで支払バッチに割り当てられた銀行リレーション

注意

銀行が見つからなかった場合は、自動的に支払の銀行の割当 (マニュアル) (tfcmg1251m000) セッションまたは銀行を口座引落にマニュアル割当 (tfcmg4251s000) セッションが開始されるので、マニュアルで銀行リレーションを選択します。

手形支払については、支払手形の処理 (tfcmg1226m000) セッションまたは処理中の選択済支払手形 (tfcmg1526m000) セッションで状況が [支払済] に変更されると、銀行リレーションが選択されます。

支払/回収予定

支払予定プロセスでは、銀行リレーション (tfcmg0110s000) セッションで次のフィールドが更新されます。

- 支払予定 (tfcmg2110s000) セッションで銀行リレーションが選択されると、[貸方の銀行残高] フィールドが確認されます。
- 支払予定 (明細) (tfcmg2116s000) セッションまたは支払予定状況 (tfcmg2512m000) セッションで、伝票状況が [手形 (受取)] から [手形 (受取/送付)] に変更されると、[支払予定金額] フィールドが更新されます。

- 同様に、回収予定 (明細) (tfcmg2117s000) セッションまたは回収予定状況 (tfcmg2513m000) セッションで、伝票状況が [手形 (顧客送付)] から [手形 (顧客承認済)] に変更されると、[回収予定金額] フィールドが更新されます。
- 銀行勘定照合表の転記 (tfcmg5210m100) セッションで支払伝票または回収伝票が調整されると、[銀行残高] フィールドが更新されます。

銀行取引

支払処理中に、銀行取引 (tfcmg2500m000) セッションで次の取引が処理されると、銀行リレーション (tfcmg0110s000) セッションの [銀行残高] フィールドが更新されます。

- 前払金
- 仮払金
- 購買請求書の支払取引

回収処理中に、銀行取引 (tfcmg2500m000) セッションで次の取引が処理されると、銀行リレーション (tfcmg0110s000) セッションの [銀行残高] フィールドが更新されます。

- 前受金
- 仮受金
- 販売請求書の回収取引

注意

調整プロセス中に支払予定伝票または回収予定伝票が拒否された場合は、銀行リレーション (tfcmg0110s000) セッションで同じ金額が減額されます。

マニュアル回収予定

回収予定は、マニュアルで実行することもできます。回収予定をマニュアルで処理するには、次のセッションを使用します。

- 取引タイプ (tfgl0511m000)
取引タイプを定義し、メインセッションとして回収予定 (tfcmg2111s000) セッションに入力し、第2セッションとして回収予定 (明細) (tfcmg2117s000) セッションに入力する必要があります。
- 取引入力 (tfgl1140m000)
回収予定の取引タイプを入力し、取引分類が「キャッシュ」に設定されている取引タイプを使用する必要があります。
- 回収予定 (tfcmg2111s000)
販売請求書をマニュアルで選択して、現預金回収を取得することができます。銀行リレーションおよび、回収予定に適した支払方法を入力する必要があります。回収取引の合計額も入力します。
- 回収予定 (明細) (tfcmg2117s000)
回収予定金額の詳細を入力できます。
- 支払予定状況 (tfcmg2512m000)
支払方法に転記ステップがいくつか定義されている場合は、回収予定の状況を追跡することができます。回収状況を、口座引落手順の後ろの方のステップに関連付けた回収状況に変更することで、新しく転記が作成されるので、これらを総勘定元帳モジュールに転記する必要があります。
- 支払/回収予定の調整 (tfcmg2102s000)
銀行で処理される回収予定を調整することができます。回収予定 (tfcmg2111s000) セッションで定義された銀行リレーションに関連付けられた取引タイプを使用する必要があります。

支払手順

支払手順で、支払詳細を構成して転記するために請求書を選択します。バッチでエラーが発生すると、支払処理は停止します。

支払をマニュアルで処理するには、次のセッションを使用します。

- 支払/回収方法 (tfcmg0540m000)
支払方法を設定します。支払方法を請求先にリンクして、請求書の支払方法を定義することができます。
- 銀行リレーション (tfcmg0510m000)
銀行リレーションを設定します。取引先との間で支払を処理するには、銀行リレーションは必須です。
- 銀行/支払方法別データ (tfcmg0545m000)
このセッションを使用して、支払方法と銀行リレーションの組合せを定義します。これらの組合せによって、特定の銀行との支払を財務レコードで処理する方法が指定されます。元帳勘定も定義する必要があります。さらに、支払方法をそれぞれの購買請求書にリンクします。
- 支払請求書の選択 (tfcmg1220m000)
このセッションで自動選択プログラムを使用して、支払期限になっている購買請求書を選択することができます。買掛金モジュールの未決済取引から、支払期限になっている購買請求書を選択するオプションもいくつかあります。
- 支払通知 (tfcmg1609m000)
監査する必要がある支払通知のリストを作成します。最終支払手順が開始される前であれば、変更が可能です。
- 支払の処理 (tfcmg1240m000)
 - 最終手順では、支払期限になっている購買請求書の発注先別に、個別に支払ラインを作成します。
 - 支払に関する優先順位も銀行に割り当てます。エラーが発生した場合、取るべき処置を示すエラーリストが出力されます。
 - データの入力後に、銀行オーダまたは小切手が出力されるか、電子銀行ファイルが作成されます。
 - 支払方法と銀行リレーションの組合せで指定されているように、支払予定が総勘定元帳勘定に転記されます。また、買掛金モジュールの未決済取引が更新されます。
 - 支払予定は、差し引きを行う銀行に送付されます。銀行で支払が処理された後、銀行勘定照合表を受け取ります。
- 取引 (tfgld1101m000)
このセッションでは、支払/回収予定の調整 (tfcmg2102s000) セッションの銀行勘定照合表に関する情報によって、LN のデータを更新することができます。
- 銀行取引 (tfcmg2500m000)
このセッションを使用して銀行取引を処理できます。
- 支払/回収予定の調整 (tfcmg2102s000)
銀行で処理される予定伝票を調整することができます。調整の処理には、[現預金]に設定されている取引タイプを使用します。支払が実行されたときに処理された、以前の転記が振り戻されます。総勘定元帳勘定に表示される銀行残高が減らされます。また、買掛金モジュールの未決済取引が更新され、請求書が支払われます。購買請求書にリンクされている現預金伝票および請求書の未決済残高の両方とも、ゼロに設定されます。
- ファイナライズ実行番号 (tfgld1519m000)
このセッションを使用して、会計取引をファイナライズできます。その後、元帳履歴およびディメンション履歴がクローズされます。

請求書への仮受金の割当

どの請求書にも割り当てられていない回収は、仮受金と呼ばれます。これらの回収に対する税金は算出されません。仮受金は後で請求書に割り当てることができます。回収を請求書に割り当てるには、次のステップを実行します。

回収を請求書に割り当てするには、次のセッションを使用します。

- 取引入力 (tfgld1140m000)
取引分類が [現預金] である取引タイプを選択する必要があります。次を参照してください:
取引タイプの使用 (ページ 107)
- 前受金/仮受金を請求書に割当 (tfcmg2130s000)
請求書に割り当てる必要のある回収を選択します。適切なメニューで [請求書を前受金/借受金に割当] を選択して、仮受金/前受金を請求書に割当 (tfcmg2105s000) セッションを開きます。回収を適用する請求書を選択できます。
- 仮受金/前受金を請求書に割当 (tfcmg2105s000)
仮受金を適用する請求書を選択できます。回収が具体的に1つ以上の請求書を対象としていない場合は、請求書を経過期間に基づいて割り当てることができます。適切なメニューで [仮払金/仮受金を前払金/前受金に割当 (最遅順)] を選択して、前払金/前受金、仮払金/仮受金順の割当 (最遅発生順) (tfcmg2109s000) セッションを開きます。
- 前払金/前受金、仮払金/仮受金順の割当 (最遅発生順) (tfcmg2109s000)
請求書の割当は、伝票日付または期日を基準にする必要があります。[期日] または [伝票日付] のチェックボックスをオンにします。
- 未決済品目の選択 (tfcmg2118s000)
仮受金/前受金を請求書に割当 (tfcmg2105s000) セッションの適切なメニューで [未決済品目の選択] オプションを選択します。未決済品目の選択 (tfcmg2118s000) セッションが開き、ここで関連取引先の未決済請求書を選択できます。
- 前払金/前受金への仮払金/仮受金の割当 (tfcmg2108s000)
仮受金/前受金を請求書に割当 (tfcmg2105s000) セッションの適切なメニューで [前払金/前受金への仮払金/仮受金の割当] オプションを選択することもできます。前払金/前受金への仮払金/仮受金の割当 (tfcmg2108s000) セッションが開き、ここで以前の仮受金を前払金に割り当てることができます。
- 前払金/前受金、仮払金/仮受金の割当明細 (tfcmg2524s000)
請求書に割り当てる必要のある回収の明細を表示できます。
- 割当明細 (tfacp2530m000)
割り当てられている回収および請求書の明細を表示できます。

- 割当額の入力 (tfcmg2107s000)
回収の合計額を請求書にリンクできない場合や、請求書を完全に割り当てる場合には、請求書レコードをダブルクリックして割当額の入力 (tfcmg2107s000) セッションを開きます。割り当てる金額は、マニュアルで関連する請求書に入力できます。償却フィールドに、選択されている仮払金または前受金を特定の請求書に割り当てる方法が表示されます。
- [割当タイプ] フィールドは、次のいずれかに設定することができます。
 - [自動]: 請求書の全未決済金額および残りの仮受金額/前受金額の最低額が償却されます。
 - [なし]: まだ未決済請求書に割り当てられていない金額
 - [マニュアル]: まだ割り当てられていない回収額の一部が、ここで特定の請求書に割り当てられます。このオプションを選択すると、請求書に割り当てられている回収額を変更できます。また、割引、遅延回収の延滞金利、および回収差額も変更することができます。
- 仮受金/前受金を請求書に割当 (tfcmg2105s000)
最後に、適切なメニューから [割当の処理] オプションを選択して割当額を処理する必要があります。伝票番号 (tfcmg2114s000) セッションが開きます。金額を処理する取引タイプの伝票シリーズを選択する必要があります。

電子銀行勘定照合表

銀行は、実施された支払や口座引落などの回収金額に関する勘定照合表を、紙のレポートではなく電子形式で送ることができます。

電子的に受領した銀行勘定照合表の変換、検証、照合、および転記に必要なすべてのアクションは、単一セッション内で実行できます。

- 銀行勘定照合表ワークベンチ (tfcmg5610m100) (LN UI)
- 銀行勘定照合表 (tfcmg5610m000) (Infor Ming.le)

または、以下の一連の電子銀行勘定照合表セッションを使用することもできます。

電子銀行勘定照合表を処理するには

1. 電子銀行勘定照合表の変換 (tfcmg5202m000)
受領した銀行ファイルを LN で処理できるフォーマットに変換します。変換済の銀行勘定照合表ファイルは、銀行リレーション (tfcmg0510m000) セッションの [EBS アーカイブのパス] フィールドで指定した関連銀行用のディレクトリに保存されます。[EBS ファイルパス名] フィールドで、ファイル名を追加する必要があります。ファイル名に現在の日付を追加するには、ファイル名にチルダ (~) を付加します。
2. 電子銀行勘定照合表の変換 (tfcmg5202m000)/銀行勘定照合表 (tfcmg5510m000)/銀行勘定照合表ライン (tfcmg5511m000)
変換済電子銀行勘定照合表を検証します。
3. 銀行勘定照合表の照合 (tfcmg5210m000)
可能な限り多くのインポート済取引明細書 ([検証済] 状況) が、未決済品目と自動的に照合されます。取引明細書は、販売請求書、購買請求書、支払予定伝票と照合できます。
次のいずれかの照合オプションを選択できます。
 - [照合 - 年齢調べ/未配賦の超過] (デフォルト)
 - [照合 - 未配賦の超過]
 - [照合 - マニュアル配賦対象の超過]照合オプションに加えて、次の支払オプションがあります。
 - [支払不足の許可]
 - [支払差額許容範囲の使用]
4. 照合結果 (tfcmg2500m100)
照合処理の結果を確認します。

未照合金額を処理するには、以下のいずれかを行います。

- 仮払金または入庫ラインをマニュアルで追加します。
- 取引先の残りの未決済取引で超過を調整します。

5. 銀行勘定照合表の転記 (tfcmg5210m100)
銀行取引を総勘定元帳に転記します。
6. 回収先取引先別銀行口座 (tccom4115s000) セッションで、銀行勘定照合表ファイルから読み出された明細に基づいて、取引先銀行の口座番号をはじめとする詳細を更新します。

電子銀行勘定照合表の自動照合

銀行勘定照合表の照合 (tfcmg5210m000) セッションでは、LN によって、各電子銀行勘定照合表合計額が、可能な限り多くの未決済取引と照合されます。

照合取引

LN で照合できる取引は次のとおりです。

- 出金と支払予定の照合 (発注先勘定の自動調整)
- 入金と回収予定の照合 (顧客勘定の自動調整)
- 出金と未決済購買請求書の照合 (買掛金で自動支払手順を使用しない場合)
- 入金と未決済販売請求書の照合 (売掛金で口座引落手順を使用しない場合)
- 入金と未決済販売請求書の照合 (口座引落手順を使用しない場合、入庫に関する送金通知が存在するとき)

照合オプション

取引先の未決済取引を銀行勘定照合表ラインと照合するため、銀行勘定照合表の照合 (tfcmg5210m000) セッションには次のオプションがあります。

- [照合 - 年齢調べ/未配賦の超過]
照合処理は、銀行勘定照合表ラインの記述フィールドの情報と正確に一致する未決済取引を最初に照合します。
照合される未決済取引の合計額が銀行勘定照合表ラインの金額より少ない場合、超過は年齢調べに基づいて取引先の残りの未決済取引に引き当てられます。取引先の(残りの)未決済取引が見つからない場合や超過が残る場合は、銀行勘定照合表ワークベンチ (tfcmg5610m100)/銀行勘定照合表 (tfcmg5610m000) セッションの [照合結果] セクションに仮払金または入庫ラインが追加されます。
- [照合 - 未配賦の超過]
照合処理は、銀行勘定照合表ラインの記述フィールドの情報と正確に一致する未決済取引を最初に照合します。
正確に一致する取引先の未決済取引が見つからない場合や、正確に一致する未決済取引の金額が銀行勘定照合表ラインの金額より少ない場合は、銀行勘定照合表ワークベンチ (tfcmg5610m100)/銀行勘定照合表 (tfcmg5610m000) セッションの [照合結果] セクションに仮払金または入庫ラインが追加されます。

- [照合 - マニュアル配賦対象の超過]
照合処理は、銀行勘定照合表ラインの記述フィールドの情報と正確に一致する未決済取引を最初に照合します。
正確に一致する取引先の未決済取引が見つからない場合は、銀行勘定照合表ラインに未照合金額が残ります。未決済取引の金額が銀行勘定照合表ラインの金額より少ない場合は、差額が未照合金額として銀行勘定照合表ラインに残ります。
未照合金額を処理するには、以下のいずれかを行います。
 - 仮払金または入庫ラインをマニュアルで追加します。
 - 取引先の残りの未決済取引で超過を調整します。

支払オプション

銀行勘定照合表の照合 (tfcmg5210m000) セッションには、照合オプションに加えて、次の支払オプションがあります。

- [支払不足の許可]
- [支払差額許容範囲の使用]

照合ルール

LN が取引先を決定して関係する未決済取引を照合した後、自動照合処理において、EBS 照合ルール (tfcmg5115m000) セッションで定義済の有効なルールが検討されます。

例外

次の場合は、自動照合処理の完了時に、照合結果に例外が含まれることがあります。

- LN で銀行勘定照合表ラインの銀行口座または国際銀行口座番号番号が見つからなかった
- LN で取引先を識別できなかった
- 銀行勘定照合表ラインの記述フィールドの情報から、該当する未決済取引を取得できなかった、または一部取得できなかった
- 銀行勘定照合表ラインの記述フィールドの情報から、該当する未決済取引を取得できたが、銀行勘定照合表ラインの金額が該当する未決済取引の合計額を超えていた
- 銀行勘定照合表ラインの記述フィールドの情報から、該当する未決済取引を取得できたが、銀行勘定照合表ラインの金額が該当する未決済取引の合計額より少なかった
- 銀行勘定照合表ラインの記述フィールドの情報から、該当する未決済取引を1つ以上取得できなかった

これらすべての場合、銀行勘定照合表ワークベンチ (tfcmg5610m100)/銀行勘定照合表 (tfcmg5610m000) セッションの [照合結果] セクションの [例外] チェックボックスがオンになります。[例外] チェックボックスをオフにするには、調整を行うか例外を確認する必要があります。

照合処理のおもな手順

自動照合処理のおもな手順は次のとおりです。

1. 銀行参照の照合
2. 送金通知の照合

3. 支払予定 (小切手を使用) の照合
4. 支払予定の照合
5. 伝票記述または参照の照合
6. ルールの照合

MT940 銀行ファイルの分配

MT940 銀行ファイルの分配 (tfcmg5207m000) セッションを使用して、MT940 フォーマットの銀行ファイルを各種銀行リレーションの正しいディレクトリに分配します。

銀行ファイルのインポート先ディレクトリを指定します。

[処理] をクリックすると、LN で、指定したディレクトリ内の各銀行ファイルの最初の行が読み取られ、SWIFT 住所と「銀行リレーション」に定義されている銀行の SWIFT コード との照合が試行されます。

正しい銀行が見つかり、銀行リレーション (tfcmg0110s000) セッションの [EBS ファイルのパス] フィールドで銀行用に指定したディレクトリに銀行ファイルがコピーされます。

手形 - 概要

手形は、銀行手形や小切手、貸借契約書、および為替手形などの法的に承認された支払形式です。手形は現預金支払の代わりに使用されます。手形は譲渡できるため、割引や裏書など貸方手段としても使用できます。手形は、現地の商慣習や銀行標準に従い、紙と磁気サポートによって使用されます。

手形には次の2つのタイプがあります。

- 支払手形 (ページ 51)
- 受取手形 (ページ 41)

受取手形

受取手形 (TNR) は顧客から受け取る文書で、一定期間の経過後に未払額を支払うことを約束するものです (約束手形)。TNR を作成すると、未決済入力が支払伝票に取り替えられます。このような TNR は、裏書または割引することができます。

請求書の手形への取替

手形は、小切手や銀行手形などの支払手段の1つです。手形には保証のないものもあります。このような手形は、通常回収予定として扱われます。

債務のある手形は、通常安全ですが、関連請求書に取り替えることができます。このような場合、手形が作成されると、請求残高が手形金額分差し引かれ、支払伝票の新しい未決済入力がこの手形に対して作成されます。手形が処理されると、新しい未決済入力も更新されます。その結果、取引先の残高は変更されなくなります。

手形の割引

受取手形は請求書と取り替えることができるため、手形の満期日の前に資金を調達するには、銀行に手形の未払額を前払いしてもらうよう銀行と取引できます。銀行は受取手形の残額から手数料/利息を差し引き、差額を会社へ送金します。これは手形の割引として知られています。

請求書のファクタリングと同様に、手形の割引は、償還あり、またはなしにできます。償還ありの受取手形を割引する場合、顧客が支払をしなかった場合、前払金を銀行に払い戻す必要があります。

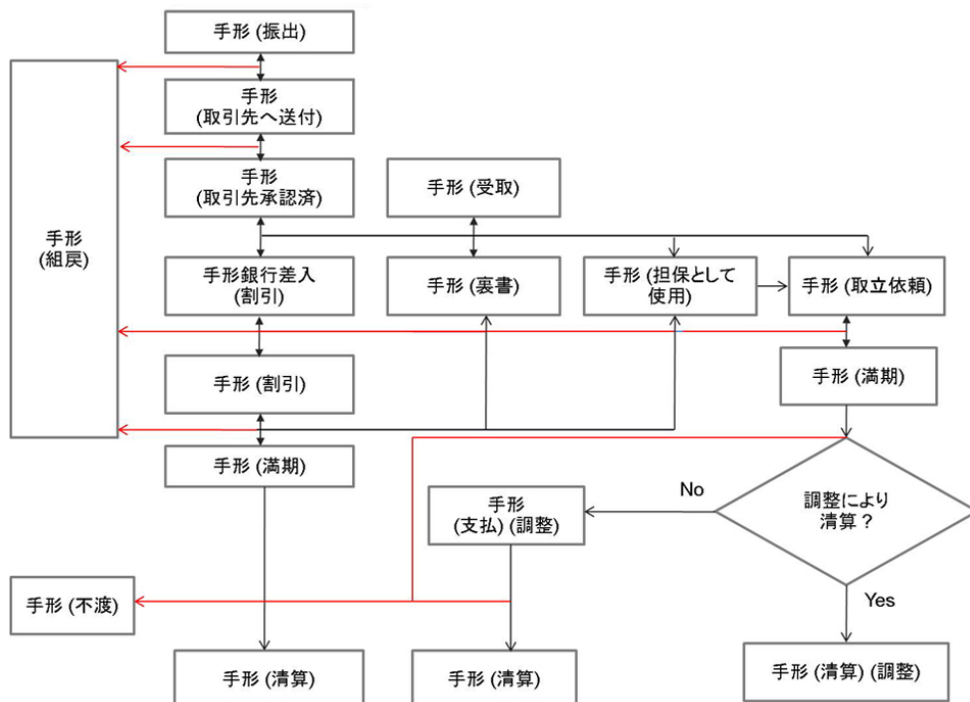
手形タイプ (tfcmg0516m000) セッションで [手形割引可能] チェックボックスをオンにして、回収方法での割引に関連するステップも選択する必要があります。手形割引を処理するには、まず [手形銀行差入 (割引)] ステップを実行し、その後 [手形 (割引)] ステップを実行する必要があります。[割引詳細] ([割引通貨]、[割引額] または [割引率]、[手数料率] または [手数料金額]) を指定する必要があります。

手形ステップ

手形の状況には、その手形に対して最後に実行されたステップが常に表示されます。

受取手形には次の状況があります。

- [未決済] (初期状況)
- [受取済]
- [取引先送付済]
- [受取/送付済]
- [満期]
- [銀行差入済]
- [支払済] ([清算済])
- [無効]
- [取消済]
- [不渡]
- [割引済]
- [担保]
- [裏書]



手形の回収方法を定義する場合、手形に対して行うステップを選択できます。ステップには、支払手形だけに使用できるものや、受取手形だけに使用できるものがあります。また、他のステップの選択に応じて使用可否が決まるステップもあります。オプションとして指定できるステップもあります。

調整

手形が満期になると、現金化されます。次に、手形が照合され清算されます。手形が満期になる前は、手形を取り消すことができます。満期または照合が行われた後、顧客が支払を怠ったときは手形を不渡にすることができます。予定残高を調整後に更新するには、回収方法の[調整時に予定残高を更新]チェックボックスをオンにします。

各手形タイプに応じてステップを選択する方法の詳細については、受取手形を設定して処理するには (ページ 43)を参照してください。

担保

銀行から融資を受けるための担保となる手形。回収方法で[手形担保差入]ステップを選択する必要があります。このステップの実行時に、[担保詳細] ([担保 - 銀行] または [担保 - 供託者]) を指定する必要があります。

受取手形を担保として、借入金が銀行で決済された後、照合のため再度銀行に送付できます。

裏書

発注先に対する支払の決済を行うことによって、会社の受取手形を発注先に転送する処理を裏書と言います。詳細は、次の情報を参照してください: 手形を裏書するには (ページ 45)

受取手形を設定して処理するには

受取手形処理を設定するには、次の順にセッションを使用します。

1. 現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000)
[手形] タブで、次のデータを入力します。
 - [手形] チェックボックスをオンにします。
 - 作成できる手形の最低額および手形の作成に使用される番号グループを定義し、マニュアルで支払手形と受取手形を入力します。
 - 手形残高のレポートを取引先別および部署別に作成する場合は、[手形の会計オフィス] チェックボックスをオンにします。
2. 回収先取引先 (tccom4114s000)
[支払] タブで、手形の処理に必要なデータを入力します。[部署] フィールドに、取引先の手形を登録するデフォルトの会計オフィスを入力できます。現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションの[手形の会計オフィス] チェックボックスもオンにすると、取引先別および部署別の手形残高のレポートを作成できます。注意: ステップ 1 の現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションで [手形] チェックボックスをオンにしていない場合、[手形] 情報フィールドは非表示になります。

3. 回収先取引先別手形分割 (tfcmg0517m000)
受取手形をより小額の手形に分割する場合、分割データを入力します。詳細については、手形分割 (ページ 48) を参照してください。
4. 手形パラメータ (tfcmg0512m000)
手形ステップごとに、各ステップの取引タイプおよび番号シリーズを定義します。[手形(割引)] ステップでは、割引金額と手数料金額および勘定科目も定義する必要があります。
5. 手形タイプ (tfcmg0516m000)
支払のシリーズおよび条件を定義します。該当する場合は、[印紙税課税国/コード] を選択します。さらに、[請求書を手形に置換] チェックボックスをオンにして請求書を手形に置き換え、[取引先グループ別転記体系] を選択して取引先グループ別に定義した転記スキームを手形に適用できるように指定します。
6. 支払/回収方法 (tfcmg0140s000)
受取手形の回収方法を定義します。
 - [支払/回収方法の種類] リストボックスで[手形]を選択します。直前のステップで定義した手形タイプを選択します。
 - [ステップ] タブで、回収方法について必須およびオプションの手形ステップを選択します。
 - 適切なメニューで[手形転記体系の作成]を選択し、事前定義済みのスキームに従って回収方法の転記データを作成します。あるいは、[手形転記データ]を選択して支払/回収方法別手形転記データ (tfcmg0514m000) セッションを開始します。
7. 支払/回収方法別手形転記データ (tfcmg0514m000)
手形の転記データを定義および作成します。手形タイプ (tfcmg0516m000) セッションで手形タイプの[取引先グループ別転記体系]チェックボックスをオフにしている場合、転記が必須となっている手形ステップでは元帳勘定およびディメンションが必須入力になります。各ステップごとに、借方入力および貸方入力の転記データを定義する必要があります。
8. 支払/回収方法 (tfcmg0140s000)
[取引先グループ別転記体系]チェックボックスをオンにしている支払/回収方法の手形タイプを選択している場合、事前定義されたスキームに従って、支払/回収方法 (tfcmg0140s000) 詳細セッションの適切なメニューで[手形転記体系の作成]をクリックして、支払/回収方法の転記スキームを作成できます。
9. ステップごとの支払/回収方法別手形レポート (tfcmg0515m000)
選択した回収方法の各手形ステップのレポートと銀行ファイルのレイアウトおよび出力デバイスを定義します。
10. 理由 (tcmcs0105m000)
手形が取り消された理由を示す理由コードを定義できます。
11. 手形に関して印紙税の支払義務がある場合、印紙税 (ページ 55) の説明に従って、印紙税を設定してください。

受取手形を処理するには

受取手形を処理するには、次のセッションを使用します。

1. 口座引落通知 (tfcmg4609m000)
口座引落通知 (tfcmg4509m000) セッションで口座引落通知バッチを作成します。すると、口座引落通知 (tfcmg4609m000) セッションが開始されます。[通知のタイプ] フィールドを設定して、[伝票] フィールドで請求書番号を指定します。金額詳細はデフォルト設

定されます。口座引落通知ライン (tfcmg4101m000) セッションの [銀行詳細] タブで支払/回収方法を選択します。変更内容を保存してバッチを承認します。

2. 受取手形の生成 (tfcmg4225m000)
口座引落通知 (tfcmg4609m000) セッションで作成したバッチ番号を指定し、[作成] を選択して受取手形を作成します。
3. 受取手形 (tfcmg4525m000)
[受取手形番号] フィールドで作成された受取手形番号を見直して、[受取手形状況] が [未決済] に設定されていることを確認します。適切なメニューで [受取手形の転記] を選択し、最初の手形ステップに転記を作成します。転記データ (tfcmg1258m000) セッションを開きます。
4. 転記データ (tfcmg1258m000)
[転記] を選択し、手形ステップに転記を作成します。受取手形 (tfcmg4525m000) セッションで [受取手形状況] が [受取済] 状況に更新されます。
5. 受取手形の処理 (tfcmg4226m000)
回収方法を選択して [最終実行ステップ] (すでに処理済のステップ) を設定し、[次回実行ステップ] フィールドで次の手形ステップを設定し、[処理] を選択して手形を処理します。
6. 処理中の選択済受取手形 (tfcmg4526m000)
処理準備ができた受取手形を確認します。[更新状況] チェックボックスオンにして、適切なメニューで [処理] を選択して、選択済の受取手形を処理します。
7. 転記データ (tfcmg1258m000)
[転記] をクリックして、実行された手形ステップに転記を作成します。受取手形 (tfcmg4525m000) セッションで、[受取手形状況] は選択されている現在の状況に更新されます。たとえば、[割引のために銀行差入済] に状況が変わります。
8. 受取手形 (tfcmg4525m000) セッションの [受取手形状況] が [清算済] に設定されるまで、上記の 5、6、7 のステップを繰り返します。
9. 決済済受取手形の削除 (tfcmg4225m001)
選択した範囲の手形を削除する場合は、[削除] を選択します。[受取手形状況] が、[清算済]、[取消済]、[不渡] または [無効] に設定されている手形が削除され、これらの手形にリンクされている伝票も削除されます。

手形を裏書するには

裏書は、償還あり、および償還なしで作成できます。手形が償還ありで裏書きされ、顧客が支払を行わなかった場合、会社は発注先に支払う義務があります。手形が償還なしで裏書きされている場合は、会社は発注先に支払う義務はありません。

重要

裏書処理を実行する前に、手形タイプ (tfcmg0516m000) セッションで [償還による割引/裏書] チェックボックスをオンにして、支払/回収方法 (tfcmg0140s000) セッションで [手形 (裏書)] ステップを選択します。

口座引落通知を作成して受取手形を作成した後、受取手形を確認し、最初の手形ステップを処理します。

手形を裏書きするには、次のステップを実行します。

1. 受取手形の処理 (tfcmg4226m000)
回収方法を選択して、[最終実行ステップ] (すでに処理済のステップ) および [次回実行ステップ] の各フィールドを設定します。たとえば、[最終実行ステップ] フィールドで [手形 (受取)] を、[次回実行ステップ] フィールドで [手形 (裏書)] を選択できます。[処理] ボタンをクリックします。処理中の選択済受取手形 (tfcmg4526m000) セッションを開きます。
2. 処理中の選択済受取手形 (tfcmg4526m000)
[更新状況] チェックボックスをオンにして、適切なメニューで [裏書] オプションをクリックして、発注先への手形を裏書きします。請求元取引先への裏書 (tfcmg4528m000) が開始されます。
3. 請求元取引先への裏書 (tfcmg4528m000)
請求元取引先を選択します。OK ボタンをクリックすると、転記データ (tfcmg1258m000) セッションが開きます。
4. 転記データ (tfcmg1258m000)
[転記] をクリックして、手形ステップに元帳転記を作成します。裏書用購買請求書 (tfcmg4529m000) セッションを開きます。
5. 裏書用購買請求書 (tfcmg4529m000)
指定した請求元取引先に対して裏書きする購買請求書を確認します。
適切なメニューで、次の操作を行います。
 - 選択した請求書に手形の回収額を割り当てる場合は、[自動割当] オプションをクリックします。
 - 割当額を処理する場合は、[割当の処理] オプションをクリックします。支払方法を選択して処理を続けます。処理が完了したら、受取手形 (tfcmg4525m000) セッションで状況を確認します。
6. 受取手形 (tfcmg4525m000)
[裏書] に設定されている手形の状況を確認します。手形が償還なしで裏書きされている場合は、その状況が [清算済] に更新されます。適切なメニューで [支払通知ラインの詳細 裏書受取手形] オプションを選択して、支払通知ラインの詳細 裏書受取手形 (tfcmg4525m200) セッションを開きます。
7. 支払通知ラインの詳細 裏書受取手形 (tfcmg4525m200)
受取手形に割り当てられている購買請求書を確認します。

[裏書詳細] を、受取手形 (tfcmg4125s000) セッションの [詳細 - 1] タブに表示できます。

受取手形の生成ルール

受取手形を受取手形の生成 (tfcmg4225m000) セッションの受取手形通知バッチから作成する場合、次のルールが適用されます。

構成基準

通知ラインの伝票は、次の構成基準に基づいて 1 つの受取手形から構成されます。

- 回収先取引先
- 通貨
- 回収方法

- 回収先取引先の銀行
- 会社別
- 計画決済日

手形の生成

受取手形の生成には次のルールが適用されます。

- [手形 (受取)] ステップを選択した [手形] 回収方法の通知ラインのみ、生成が考慮されます。[手形] 回収方法の他の通知ラインは、マニュアルでのみメンテナンスできます。
- 手形の最低額、印紙税、分割タイプ、および取引先に許可されている手形の最大数が考慮されます。
- 生成する受取手形数は、分割タイプにより決定されます。この数が取引先に許可されている手形の最大数を超過している場合、残余额に対し最後の受取手形が生成されます。
- 受取手形を生成した後に手形の最低額面より少ない残高がある場合、この残高は前の手形額面に追加されます。
- 受取手形の合計額は、受取手形にリンクされているすべての通知ライン金額の合計になります。販売貸方票および購買請求書はマイナス金額とみなされるため、合計額から差し引かれます。合計額がマイナスになる場合、受取手形は作成されません。

手形の会計転記の前提条件

手形ステップの会計取引が転記される元帳勘定を定義できます。

- 顧客グループまたは発注元グループ別
- LN により作成された事前定義転記スキームに基づく
- 支払/回収方法ごと

各ステップの会計取引を特定の元帳勘定に転記できます。手形ステップには、ステップの財務転記の作成が必要かどうか指定することができます。

手形タイプごとに、手形取引を取引先グループごとに指定した元帳勘定、または支払方法/回収方法別に指定した元帳勘定に転記するかどうか指定することができます。

LN では、手形の事前定義転記スキームが提供されます。このスキームを使用して、手形転記スキームを取引先グループ別に作成できます。注意: それぞれの転記スキームが、請求書に置き換える手形および請求書に置き換えない手形に対して提供されていることに注意してください。

支払方法または回収方法ごとに、LN に提供された事前定義手形構造に基づいた転記スキームを作成したり、マニュアルで手形ステップを転記する必要のある元帳勘定およびディメンションを定義できます。

手形転記スキームに対し、使用可能な元帳勘定はこの方法が支払に対するものなのか回収に対するものなのか、および取引先グループ別に転記するのか支払/回収方法別に転記するのかに依存します。

手形分割

支払合計金額を額面金額の小さい複数の手形に分割することができます。会社は全額を 1 つの手形で発行せずに、この金額をカバーする複数の手形を発行します。

手形の分割には、2 つの理由があります。

- 小額で手形を作成すると、裏書または割引ができるため。このような手形の額面金額は、会社と取引先間の合意によって決定されます。
- 印紙税の金額を最低限に抑えるため。全額を 1 つの手形で発行せずに、この金額をカバーする複数の手形を発行します。

取引先ごとに、回収先取引先 (tccom4114s000) セッションで以下のように手形の分割方法を指定できます。

- 取引先に指定された事前定義の値
手形金額を分割するには、[手形の分割方法] フィールドで [事前定義の値] オプションを選択します。
- 印紙税関税表
手形に関して印紙税の支払義務がある場合、印紙税 (ページ 55) の説明に従って、印紙税を設定してください。

事前定義値に基づいた分割データ

発注先から会社の会計士に対し、1 つの取引で受け取る手形の最大数および手形の額面金額について指示されることもあります。

たとえば、発注先が 1 つの請求書に対して 4 枚以上の手形を希望しない場合があります。請求額が 100,000 ユーロまでの場合、この金額は 25,000 ユーロの手形に分割されます。請求額が 1,000,000 ユーロまでの場合、この金額は 100,000 ユーロの手形に分割されます。このような例があります。

次のテーブルは、この契約のデータを示しています。すべての値は、現地通貨で表しています。

金額上限	手形の額面	最大数
100,000	25,000	4
1,000,000	100,000	4
10,000,000	1,000,000	4

このデータに基づいて、85,000 ユーロの請求書は次のようになります。

- 25,000 ユーロの手形が 3 枚作成されます。
- 残余金額は、10,000 ユーロで 1 枚作成されます。

手形の最大数が 3 の場合、85,000 ユーロの請求書は次のようになります。

- 25,000 ユーロの手形が 2 枚作成されます。
- 残りの金額は 30,000 ユーロで 1 枚作成されます。

印紙税関税表による分割データ

取引先が手形分割の事前定義値を提供していない場合、最適な手形分割を設定して、印紙税の金額を最小化することができます。

国によっては、手形の印紙税が次の例のように段階的計算テーブルに基づいて決定されます。

手形額面金額まで	印紙税額
10,000 ユーロ	2 ユーロ
100,000 ユーロ	20 ユーロ
1,000,000 ユーロ	200 ユーロ

印紙税は現地通貨で表されています。

注意

印紙税は、通常段階的に減額または固定になります。つまり、手形金額が高くなると、税率は固定か減少になります。その結果、手形を分割するときは、手形は常に可能な限り高い額面で作成する必要があります。

印紙税を節約するため、手形数および手形の額面に対する最適構造を計算することができます。

たとえば、支払う金額が 40,000 ユーロの場合、次のいずれかを行うことができます。

- 40,000 ユーロの手形を 1 枚作成し、20 ユーロの印紙税を支払う
- 8,000 ユーロの手形を 5 枚作成し、 $5 \times 2 = 10$ ユーロの印紙税を払う

支払手形

支払手形 (TNP) は発注先に送付する文書で、一定期間の経過後に未払額を支払うことを約束するものです (為替手形)。

手形ステップ

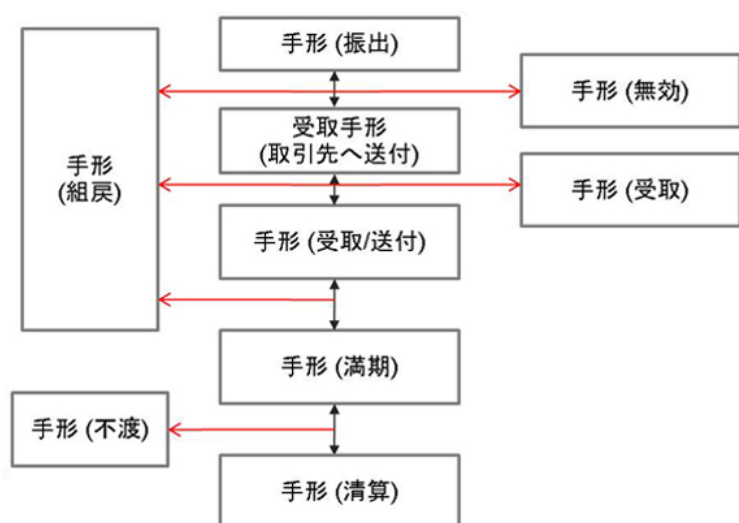
支払手形は発注先に発行することができます。

手形の支払方法を定義する場合、手形に対して行うステップを選択できます。支払手形に対してのみ使用できるステップも、受取手形に対してのみ使用できるステップもあります。また、他のステップの選択に応じて使用可否が決まるステップもあります。オプションとして指定できるステップもあります。

手形の状況には、その手形に対して最後に実行されたステップが常に表示されます。

支払手形には次の状況があります。

- [未決済] (初期状況)
- [発行済]
- [取引先送付済]
- [受取/送付済]
- [支払済] ([清算済])
- [無効]
- [取消済]
- [不渡]



各手形タイプに応じてステップを選択する方法の詳細については、支払手形を設定して処理するには (ページ 52)を参照してください。

支払手形を設定して処理するには

支払手形の処理を設定するには、次の順にセッションを使用します。

1. 現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000)
[手形] タブで、次のデータを入力します。
 - [手形] チェックボックスをオンにします。
 - 作成できる手形の最低額および手形の作成に使用される番号グループを定義し、マニュアルで支払手形と受取手形を入力します。
 - 手形残高のレポートを取引先別および部署別に作成する場合は、[手形の会計オフィス] チェックボックスをオンにします。
2. 支払先取引先 (tccom4124s000)
[支払] タブで、手形の処理に必要なデータを入力します。[部署] フィールドに、取引先の手形を登録するデフォルトの会計オフィスを入力できます。現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションの [手形の会計オフィス] チェックボックスもオンにすると、取引先別および部署別の手形残高のレポートを作成できます。注意: ステップ 1 で現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションの [手形] チェックボックスをオンにしていない場合、[手形] 情報フィールドは非表示になります。
3. 支払先取引先別手形分割 (tfcmg0518m000)
支払手形をより小額の手形に分割する場合、分割データを入力します。詳細については、手形分割 (ページ 48)を参照してください。
4. 手形パラメータ (tfcmg0512m000)
各手形ステップごとに、手形パラメータを定義します。

5. 手形タイプ (tfcmg0516m000)
手形の特定の支払方法のシリーズおよび詳細な特徴を定義します。さらに、このセッションでは、手形転記スキームを取引先グループ別に定義するか、支払方法別に定義するかを指定する必要があります。
手形番号に会社の税金番号および西暦年度の末尾2桁を含めることを義務付けている国もあります。シリーズ番号の桁数が必須情報に対して十分ではない場合、支払手形 (tfcmg1125s000) セッションで実際の手形番号をマニュアル入力することができます。
6. 支払/回収方法 (tfcmg0140s000)
支払手形の支払方法を定義します。
 - [支払/回収方法の種類] リストボックスで [手形] を選択します。
 - [ステップ] タブで、手形の支払方法または回収方法の必須のステップおよびオプションステップを選択します。
 - 適切なメニューの [手形転記データ] をクリックして、支払/回収方法別手形転記データ (tfcmg0514m000) セッションを開始します。
7. 支払/回収方法別手形転記データ (tfcmg0514m000)
手形の転記データを定義および作成します。手形タイプ (tfcmg0516m000) セッションで手形タイプの [取引先グループ別転記体系] チェックボックスをオフにしている場合、転記が必須となっている手形ステップでは元帳勘定およびディメンションが必須入力になります。各ステップごとに、借方入力および貸方入力の転記データを定義する必要があります。
8. 支払/回収方法 (tfcmg0140s000)
[取引先グループ別転記体系] チェックボックスをオンにしている支払/回収方法の手形タイプを選択している場合、事前定義されたスキームに従って、支払/回収方法 (tfcmg0140s000) 詳細セッションの 適切なメニューで [手形転記体系の作成] をクリックして、支払/回収方法の転記スキームを作成できます。
9. ステップごとの支払/回収方法別手形レポート (tfcmg0515m000)
手形ステップごとにレポートおよび銀行ファイルのレイアウトと出力デバイスを定義します。いくつかのステップは、レポート/ファイルを必須として指定することができます。
10. 理由 (tcmcs0105m000)
手形が取り消された理由を示す理由コードを定義できます。
11. 手形に関して印紙税の支払義務がある場合、印紙税 (ページ 55) の説明に従って、印紙税を設定してください。

支払手形を処理するには

支払手形を処理するには、次のセッションを使用します。

1. 支払通知 (tfcmg1609m000)
支払通知リストのバッチを新規に作成します。[通知タイプ] フィールドを設定して、[伝票] フィールドで請求書番号を指定すると、金額詳細がデフォルト設定されます。[支払/銀行詳細] タブで支払方法を選択します。
2. 支払手形の生成 (tfcmg1225m000)
支払通知 (tfcmg1609m000) セッションで作成したバッチ番号を指定し、[作成] を選択して支払手形を作成します。
3. 支払手形 (tfcmg1525m000)
[支払手形番号] フィールドで作成された支払手形番号を見直して、[支払手形状況] が [未決済] に設定されていることを確認します。適切なメニューで [支払手形の転記] を選択し、

最初の手形ステップに転記を作成します。転記データ (tfcmg1258m000) セッションを開きます。

4. 転記データ (tfcmg1258m000)
[転記] を選択し、手形ステップに転記を作成します。支払手形 (tfcmg1525m000) セッションで [支払手形状況] が [発行済] 状況に更新されます。
5. 支払手形の処理 (tfcmg1226m000)
支払方法を選択して、[次回実行ステップ] フィールドで次の手形ステップを設定し、[処理] を選択して手形を処理します。
6. 処理中の選択済支払手形 (tfcmg1526m000)
このセッションを使用して、処理する支払手形を表示して選択します。[更新状況] チェックボックスをオンにして、適切なメニューで [処理] を選択して、選択済の支払手形を処理します。
7. 転記データ (tfcmg1258m000)
以前に転記が作成されていない場合は、[転記] を選択して手形ステップに転記を作成します。支払手形 (tfcmg1525m000) セッションで [支払手形状況] が [発行済] 状況に更新されます。
8. 支払手形 (tfcmg1525m000) の [支払手形状況] が [支払済] に設定されるまで、以上のステップを繰り返します。
9. 決済済支払手形の削除 (tfcmg1225m001)
選択した範囲の手形を削除する場合は、[削除] を選択します。[支払手形状況] が、[支払済]、[取消済]、[不渡] または [無効] に設定されている手形が削除され、これらの手形にリンクされている伝票も削除されます。

支払手形の生成ルール

支払手形の生成 (tfcmg1225m000) セッションで支払手形を支払手形通知バッチから作成する場合は、次のルールが適用されます。

構成基準

通知ラインの伝票は、次の構成基準に基づいて 1 つの支払手形から構成されます。

- 支払先取引先
- 通貨
- 支払方法
- 計画支払日
- 理由コード
- 会社別
- 支払先取引先の銀行

手形の生成

支払手形の生成には次のルールが適用されます。

- [手形 (発行)] ステップが選択された [手形] 支払方法の通知ラインだけが作成対象となります。[手形] 支払方法のその他の通知ラインは、マニュアルでしかメンテナンスできません。

- 手形の最低額、印紙税、分割タイプ、および取引先に許可されている手形の最大数が考慮されます。
- 生成する支払手形数は、分割タイプにより決定されます。この数が取引先に許可されている手形の最大数を超えている場合、残余额に対し最後の支払手形が生成されます。
- 支払手形を生成した後に手形の最低額面より少ない残高がある場合、この残高は前の手形額面に追加されます。

支払手形が作成されると、額面が生成された支払通知に割り当てられます。

割当ては次のように行われます。

- 金額がマイナスのすべての伝票(マイナスの販売請求書や購買貸方票)は、最初に作成した支払手形に割り当てられます。これにより、残りの通知ラインに割り当てる必要のある支払手形で実際の金額が増加します。次に、[通知タイプ]に基づいてグループ化された通知ラインに残余额が割り当てられ、割り当てる金額の残高がゼロになるまで維持されます。
- 通知ライン金額が割り当てる残高を超えると、その通知ラインが複数のラインに分割されます。新しいラインには、次の連番が順に割り当てられます。次に、1つのラインが支払手形に割当てられ、他のラインは未決済のまま、次の支払手形に割当てられます。

印紙税

印紙税は、手形に課せられる税金の一種であり、割合ではなく固定額で徴収されます。国によっては、手形に対する印紙税の支払はその手形の発行者に義務付けられています。

スペインや日本などの国々で印紙税を支払う場合は、収入印紙を手形証書に貼る必要があります。その他の国々で印紙税を支払う場合は、手形用の公式用紙を購入する必要があります。

印紙税を設定するには

1. 現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000)
[手形] タブの [手形] チェックボックスをオンにします。次に、このセッションに必要なその他の手形情報を入力します。
2. 国別税金コード (tcmcs0136s000)
印紙税の税金コードを定義し、[税金の種類] フィールドで [印紙税] を選択します。
3. 税金コードに対する転記データ (tfgl0171s000)
印紙税の税金コードについて、次の元帳勘定を選択します。
 - [発生印紙税勘定科目]
 - [(中間) 購買税勘定]。税金の種類が [印紙税] の場合、[印紙税] になります。
4. 収入印紙税 (tcmcs1131m000)
財務会社の本国で適用される、手形の印紙税率を指定します。印紙税額を金額または割合として指定できます。
5. 回収先取引先 (tccom4114s000) および支払先取引先 (tccom4124s000)
印紙税率に基づいて取引先に対する手形を生成する場合は、[手形の分割方法] フィールドで [収入印紙税の分割] を選択します。
6. 収入印紙税の分割 (tcmcs1132m000)
支払先および回収先取引先の一部またはすべてについて、ステップ 5 で説明した [収入印紙税の分割] を手形の分割方式として選択した場合は、このセッションを使用して分割データを定義します。

注意

複数の国に多数の財務会社が存在する複数会社構造の場合、このデータが保管されているテーブル収入印紙税の分割 (tcpcs132) を共有しないでください。

小切手を使用するには

小切手マスタを使用して、支払に使用する小切手を登録し、各小切手の状況を追跡することができます。

小切手を登録するには、次のセッションを使用します。

1. 小切手マスタ (tfcmg2515m000)
このセッションを使用して、小切手マスタデータを一覧表示します。新しい小切手を登録するには、適切なメニューで [新範囲の追加] をクリックし、小切手の新範囲の追加 (tfcmg2210s000) セッションを開始します。
2. 小切手の新範囲の追加 (tfcmg2210s000)
このセッションを使用して、銀行リレーションと支払方法の個々の組合せでの支払に使用される、小切手番号の範囲を作成します。
3. 小切手マスタ (tfcmg2115s000)
このセッションを使用して、小切手詳細のメンテナンスと表示を行います。現在の状況を反映する [小切手状況] を選択し、支払先取引先や支払予定額など、小切手のさらに詳細な情報を入力します。
4. 支払/回収方法 (tfcmg0140s000)
小切手を使用する支払方法については、[小切手マスタを使用] チェックボックスをオンにします。
銀行/支払方法の組合せごとに、使用可能な小切手と使用済の小切手が小切手マスタに登録されます。ただし、支払に十分な未使用小切手が存在することが必要です。
5. 小切手マスタの出力 (tfcmg2415m000)
このセッションを使用して、特定範囲の小切手に関するレポートを出力できます。

回収確認 - 概要

各支払の出力済回収確認を顧客に送付することを法的に義務付けている国もあります。場合によっては、回収確認には他と重複しない連番を付番するように義務付けられることもあります。

回収確認に必要なデータとしては、特に次のものが挙げられます。

- 入庫番号
- 受領日
- 回収先取引先の名称、住所および税金番号
- 支払が行われた請求書の数
- 合計回収額、割引額、および税額

LN で回収確認を出力できる回収タイプは、次のとおりです。

- [通常回収]
- [前受金]
- [仮受金]

注意

回収確認を出力する前に、関連する現預金取引をファイナライズする必要があります。

複数会社の様相

複数会社構造では、支払登録済の財務会社で LN によって回収確認が出力されます。LN では、関係会社間伝票 (tfld112) テーブルを使用して、会社グループに属している他の財務会社にある関連請求書が検索されます。

パフォーマンス上の問題を回避する目的から、回収確認 (tfcmg200) テーブルは、会社グループの財務会社間での共有が可能になっています。全額払込済販売請求書のアーカイブ/削除 (tfacr2260m000) セッションを実行すると、削除済の請求書に関連する回収確認もすべて LN により削除されます。回収確認 (tfcmg200) テーブルが会社グループの財務会社間で共有されていない場合は、LN は各会社の回収確認を個別に処理しなければなりません。

回収確認 (tfcmg200) テーブルが会社グループの財務会社間で共有されている場合は、グループ会社用の回収確認の番号グループおよびシリーズを作成する必要があります。回収確認について、財務会社すべてが同じ番号グループを使用するとともに、各会社が他と重複しないシリーズを使用する必要があります。

LN は、回収先取引先 (tccom4114s000) セッションの [入庫確認の出力] チェックボックスがオンになっている取引先について回収確認を出力します。取引先詳細が部署別に定義されている場合、財務会社の経理部と同等な取引先部署について、定義済の明細が LN でチェックされます。

回収確認を設定するには

回収確認を設定するには、次のセッションを使用します。

1. 番号グループ (tcmcs0151m000)
回収確認の番号グループを作成します。[使用目的] フィールドは [適用なし] でなければなりません。
複数会社構造では、グループ会社内で単一の番号グループを作成するとともに、財務会社ごとにシリーズを作成する必要があります。
2. 現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000)
[回収確認] グループボックスに、回収確認の番号グループおよびシリーズを入力します。
グループ会社以外の財務会社については、番号グループが LN により表示されるので、選択できる項目はシリーズのみです。
3. 回収先取引先 (tccom4114s000)
取引先の回収確認を作成するには、[入庫確認の出力] チェックボックスをオンにします。
販売請求書をファクタリングする場合は、そのファクタリング会社用のチェックボックスをオンにする必要があります。

回収確認を処理するには

回収確認を表示し出力するには、次のセッションを使用します。

1. 回収確認 (tfcmg2520m000)
回収先取引先からの支払 (ファイナライズ済) について LN で生成された回収確認を表示します。
適切なメニューの [回収の選択] をクリックして、確認を生成する回収の選択 (tfcmg2200m000) セッションを開始します。
2. 確認を生成する回収の選択 (tfcmg2200m000)
回収確認を作成する回収を範囲指定して選択します。回収確認の番号グループおよびデフォルトシリーズが LN により表示されます。シリーズは変更することができます。
3. 回収確認 (tfcmg2520m000)
適切なメニューの [回収確認の出力] をクリックし、回収確認の出力 (tfcmg2420m000) セッションを開始します。
4. 回収確認の出力 (tfcmg2420m000)
セッションの目的: 回収確認を範囲指定して出力または再出力します。

全額払込済販売請求書のアーカイブ/削除 (tfacr2260m000) セッションを実行すると、削除済の請求書に関連する回収確認もすべて LN により削除されるので、回収確認をマニュアルで削除する必要はありません。

支払合意の使用

日本での請求および支払

日本の商習慣に従い発注先への支払を設定するには、支払合意を設定できます。

発注先から月次請求書を受領した場合、通常支払合意が使用されます。

支払合意を設定するには

支払合意を設定するには、次の順にセッションを使用します。

- グループ会社パラメータ (tfgld0101s000)
[支払合意] チェックボックスをオンにします。
- 支払合意 (tcmcs2506m000)
支払合意を定義します。複数の財務会社が支払合意を共有することがあるので、参照通貨で金額を定義する必要があります。
- 請求元取引先 (tccom4122s000)
発注先と支払合意を交わしている場合、この支払合意を選択します。取引先の購買オーダーラインにデフォルトでこの支払合意が追加されます。
- 品目および請求元取引先別支払合意 (tcmcs2108m000) (オプション)
必要に応じて、請求元取引先と品目または品目グループの組合せ、または財務取引先グループと品目または品目グループの組合せに対して、特定の支払合意を選択できます。
- デフォルト支払合意の設定優先順位 (tcmcs2109m000) (オプション)
品目および請求元取引先別支払合意 (tcmcs2108m000) セッションを使用した場合、このセッションを使用して、購買オーダーラインのデフォルトの支払合意を決定するために LN で使用される優先順位を定義できます。

注意

最も限定的な支払合意が検索されます。請求元取引先または取引先グループと品目または品目グループの組合せに対して固有の支払合意が見つからなかった場合、請求元取引先 (tccom4122s000) セッションで指定されているデフォルトの支払合意が使用されます。

支払合意の適用

グループ会社パラメータ (tfld0101s000) セッションで [支払合意] チェックボックスがオンであり、支払バッチ内の少なくとも 1 つの支払に支払合意が存在している場合、この支払バッチを処理または支払手形 (TNP) を生成する前に支払合意を適用する必要があります。

支払に支払合意を適用するには、次の順にセッションを使用します。

1. 支払通知 (tfcmg1509m000) または支払通知 (tfcmg1609m000)
[アクション] メニューから [支払合意の適用] を選択します。支払合意の適用 (tfcmg1230m000) セッションが開始されます。
2. 支払合意の適用 (tfcmg1230m000)
バッチ内の支払に支払合意を適用します。

支払合意を適用した場合、次のアクションが実行されます。

1. 合計請求額を計算します。
すべての請求について、次の明細が同じである必要があります。
 - 請求元取引先
 - 請求通貨
 - 支払合意
2. 合計請求額を支払合意限度と比較します。
 - 合計請求額が支払合意限度以下の場合、この支払合意を使用します。
 - 合計請求額が支払合意限度を超えた場合は、次の支払合意を使用します。
 - 使用する支払合意が見つかるまで、必要に応じてこのステップを繰り返します。
3. 支払合意定義に従い、支払予定金額を分割します。
支払ラインを作成します。支払方法が異なる支払ラインに対して個別のバッチを作成します。

支払合意は参照通貨で定義されるため、参照通貨の請求額に支払合意が適用されます。

注意

中断のない支払処理を使用する場合、自動的にこの支払合意が適用されます。無効な支払合意が含まれる支払通知は、新たに作成された例外バッチに移動されます。

自己請求を使用する場合は、自己請求購買請求書の生成 (tfacp2290m000) セッションで、次のルールが適用されます。

- 選択したラインすべてで支払合意が同じ場合、この支払合意が請求書に使用されます。
- 選択済ラインに多様な支払合意がある場合、請求元取引先 (tccom4122s000) セッションで取引先に対して定義された支払合意が使用されます。

交渉済銀行手数料

これは日本に特有の機能です。

日本では、送金側が振り替えられた支払数に基づいて、すべての銀行手数料を月末に支払います。送金側が銀行手数料を支払う場合でも、請求額が全額支払われます。送金の受取側 (通常は発注先) が銀行手数料を支払う場合は、支払が行われるごとに銀行費用が請求されます。送金方法によっては、銀行手数料が取引額から差し引かれます。

日本では、標準の銀行手数料に加えて、支払取引の支払に要する手数料について銀行と交渉して、銀行手数料を設定することができます。標準および交渉済の 2 つの銀行手数料があることで、支払人は発注先にどの金額を負担させるかを指定できます。発注先が標準銀行手数料を支払う場合、追加利益が実現されます。標準銀行手数料金額と交渉済銀行手数料金額との差額です。

銀行手数料金額に基づいて、銀行手数料に税金が追加されます。銀行手数料金額と税額の合計が、支払予定額から差し引かれます。

標準銀行手数料と交渉済銀行手数料 - 設定

これは日本に特有の機能です。

LN で (交渉済) 銀行手数料を設定するには、次の順にセッションを使用します。

ステップ 1: 現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000)

[銀行手数料の控除] 領域で、次のフィールドに入力します。

- [銀行手数料勘定の控除]
- [銀行手数料勘定の中間控除]
- [銀行手数料税金勘定の中間控除]

注意: 付加価値税 (VAT) の元帳勘定は、銀行手数料 (tfcmg0120m000) セッションで定義した税金コードで指定されます。[購買] の元帳勘定は、発注先への支払から金額を差し引くために使用します。

ステップ 2: 銀行ブランチ (tfcmg0511m000)

1. 銀行リレーション (tfcmg0510m000) および支払先取引先別銀行口座 (tccom4125s000) セッションで使用する銀行ブランチの場合は、[国内銀行 ID] フィールドに値を入力します。
日本で必要な銀行識別子は、次の 7 文字で構成されます。
 - 最初の 4 文字は銀行コードです。
 - 最後の 3 文字はブランチコードです。
2. 支払振替に使用する銀行ブランチを選択して、適切なメニューの [銀行手数料] をクリックします。銀行手数料 (tfcmg0120m000) セッションが開始されます。

ステップ 3: 銀行手数料 (tfcmg0120m000)

必要に応じて、送金方法の (交渉済) 銀行手数料と振替金額を定義します。

ステップ 4: 支払先取引先 (tccom4124s000)

日本の取引先については、[支払] タブで [発注先負担の銀行手数料] をオンにします。

ステップ 5: 支払先取引先別銀行口座 (tccom4125s000)

同じ取引先について、[銀行費用] を [受取側により費用負担] または [交渉済の受取側費用負担] に設定します。

(この値は、支払通知 (tfcmg1609m000) セッションでデフォルトとして使用されます。)

支払スケジュール - 概要

支払スケジュールは、支払期間別の支払予定額に関する合意を定義します。支払スケジュールは、支払条件にリンクすることができます。支払スケジュールの各ラインは、特定の期間内に支払う必要のある請求額の一部、支払に使用する支払方法、および支払に適用される割引条件を定義します。

支払スケジュールは、支払条件とは別個に定義しておき、複数の支払条件に再使用することができます。

回収スケジュール

売掛金モジュールでは、支払スケジュールは回収額の金額および期日を定義します。そのため、売掛金では支払スケジュールは回収スケジュールと呼ばれます。

注意

支払スケジュールと分割払の販売の相違点は、支払スケジュールでは複数の支払が単一の請求書で定義されるのに対し、分割払の販売では分割払ごとに個別の請求書が作成されることです。

支払スケジュール

支払スケジュールは、支払スケジュールヘッダおよび支払スケジュールラインから構成されます。支払スケジュールヘッダは、支払額を割合として指定するかそれとも係数によって指定するかを定義し、支払期間タイプ ([日数]、[月数] または [会計期間]) を定義します。

支払スケジュールラインには、特定の期間内に支払われる請求額の一部を定義します。支払スケジュールラインは互いに独立しています。支払方法または回収方法は、ラインごとに個別に指定できます。割引期間および割引率は、スケジュールラインごとに3つずつ定義できます。支払スケジュールラインは、支払スケジュールライン番号の直前にある請求書番号で識別されます。

請求書に支払スケジュールが適用されている場合、すべての支払スケジュールラインについて買掛金または売掛金の未決済取引が発生します。支払スケジュールラインは請求書の置換です。たとえば、与信チェック、督促状および延滞金利、支払通知/口座引落通知、未決済取引残高、年齢調べ、各種の購買請求書承認方法および為替差の評価替に使用します。

期日は支払条件の明細に基づいて計算することも、支払カレンダーを使用して求めることもできます。詳細については、支払カレンダーを使用するにはを参照してください。

請求では、取引先に期日および割引条件を通知するために、LNにより請求書およびドラフト請求書に支払スケジュールが出力されます。

注意

LN は定期請求書の支払スケジュールもサポートしています。

外注請求書については、LN は支払スケジュールをサポートしていません。

支払条件

販売請求書および購買請求書に支払スケジュールをリンクするには、支払条件を使用します。

支払スケジュールのすべてのラインに対して、支払スケジュールのリンク先となる支払条件に対して定義された期日計算がLNで使用されます。複数の支払スケジュールラインの期日が同じ場合もあります。支払請求書または口座引落を選択すると、期日を基準に支払う必要のある請求書および支払スケジュールラインがLNにより選択されます。

出荷に対する回収

支払スケジュール機能を使用して出荷に対する回収機能を使用することもできます。出荷に対する回収を使用した場合、出荷ごとの回収スケジュールラインがLNで生成されます。

支払伝票 - 概要

LN は支払伝票の処理をサポートしています。

支払伝票を次のタイプの請求書に関連付けることができます。

- 販売請求書
- サービス請求書
- プロジェクト請求書

支払伝票の使用手順を次に挙げます。

1. 顧客に送付する請求書と共に支払伝票を出力します。
2. 銀行から銀行ファイルを受け取り、支払伝票で行われた支払を照合します。
3. 発注先からの購買請求書と一緒に支払伝票を受け取ります。
4. 支払伝票にもとづいて支払ファイルを作成し、銀行に送付します。

これらの手順は、次のモジュールで実行することができます。

- 現預金管理
- 売掛金
- 請求- 請求

支払伝票設定の詳細は、国ごとに異なります。該当の国における要件がLNでサポートされている場合、支払伝票を設定し処理することができます。

スイスにおける要件の詳細については、スイスの支払伝票を参照してください。

請求の支払伝票参照ライン

銀行での電子処理では、支払伝票に支払伝票参照ラインを含める必要があります。支払伝票参照ラインには、関連する未決済取引を LN でクローズする際に必要な情報が含まれます。LN の支払伝票の参照ラインに含まれる構成要素には、次のものがあります。

- 請求額
- 2 桁のチェックサム
- 請求書伝票の取引タイプおよび伝票番号
- 会社 ID
- 回収先取引先コード
- 銀行または郵便局の口座番号

注意

支払伝票の参照ラインには数値を指定する必要があります。支払伝票処理を設定する際には、支払伝票参照ラインの作成に使用されるコード (たとえば、取引タイプや取引先コード) がすべて数値であることを確認してください。

販売請求書の支払伝票を設定するには

販売請求書の支払伝票を設定するには、次の順にセッションを使用します。

- 取引タイプ (tfld0511m000)
支払伝票を伴う請求書の数値コードが数値である取引タイプを作成します。この操作は必須操作です。支払伝票に記載される参照番号 (取引タイプを含む) は、数値でなければならないためです。
- 銀行ブランチ (tfcmg0511m000)
[顧客コード] フィールドに、会社の顧客コード、および支払伝票に関連する回収を行う銀行を入力します。
LN で作成される支払伝票の参照ラインには、顧客コードが含まれます。
- 銀行リレーション (tfcmg0510m000)
支払伝票を処理する銀行リレーションを定義します。
[銀行口座] フィールドに、支払伝票の参照ライン用の必須フォーマットで、銀行の転記勘定科目番号を入力します。
LN で作成される支払伝票の参照ラインには、銀行口座番号が含まれます。
- 回収先取引先 (tccom4114s000)
回収先取引先コードが数値であることを確認します。このコードには、数値を指定する必要があります。支払伝票の参照ライン (回収先取引先コードを含む) は、数値でなければならないためです。
- 回収先取引先の明細を入力します。
 - [銀行リレーション]
取引先からの支払を受ける銀行リレーション
 - [銀行口座]
銀行リレーションへの支払を行う、取引先の銀行
 - [銀行口座番号]
取引先の銀行口座番号。
- 支払/回収方法 (tfcmg0140s000)
自国の要件に準じた回収方法を定義します。
- 国別銀行参照位置 (cisli1130m000)
支払伝票参照ラインの作成に必要な、各フィールドの開始位置および長さを定義します。
- 追加通貨の特徴 (tfld0129m000)
支払伝票を作成する通貨 (複数可) の [支払伝票] チェックボックスをオンにします。支払伝票参照ラインが作成され、この請求通貨で請求書の支払伝票が出力されます。
- 現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000)
[仮受金を作成] チェックボックスをオンにします。その結果、電子銀行勘定照合表の照合 (tfcmg5212m000) セッションでの回収額の処理時に [仮受金を作成] がデフォルトでオンになります。

販売請求書の支払伝票を処理するには

販売請求書の支払伝票を作成するには

販売請求書の支払伝票を作成するには、次のいずれかの手順で、販売請求書を処理します。

- 請求手順による、請求書のマニュアル処理
- 請求書のジョブ処理による、請求書の自動作成

LN で販売請求書の支払伝票を正しく設定し終わると、請求書に支払伝票が関連付けられます。

支払伝票ベースの回収額を処理するには

支払伝票ベースの回収額は、定期的に受け取る銀行ファイルに収集されます。銀行ファイルは、電子銀行勘定照合表として処理することができます。詳細については、電子銀行勘定照合表 (ページ 37) を参照してください。

次の点に注意してください。

- 電子銀行勘定照合表の変換 (tfcmg5202m000) セッションでの電子銀行勘定照合表の変換後、オリジナルファイルがアーカイブディレクトリに移動します。このファイル名には現在の日付と時刻を追加する必要があります。電子銀行勘定照合表の変換 (tfcmg5202m000) セッションの [EBS ファイルパス名] フィールドで、パス名にチルダ (~) 文字を付加します。
- 空の [金額] フィールドで、支払伝票ベースの回収額の照合を可能にするには、電子銀行勘定照合表の照合 (tfcmg5212m000) セッションの [仮受金を作成] チェックボックスをオンにします。

スタンディングオーダー

購買請求書 (たとえば、原価取引や前払金) にリンクされていない支払については、スタンディングオーダーを作成することができます。スタンディングオーダーを使用して、たとえば、請求書を受領することなしに全期間の家賃または車両リース料を支払うことができます。また、支払期日後に請求書を受領する場合も、スタンディングオーダーを使用できます。

作成可能なスタンディングオーダータイプは、次のとおりです。

- 一括払用のスタンディングオーダー
- 定期取引支払用のスタンディングオーダー。いくつかの期間にわたって合計スタンディングオーダー金額を分配するか、スタンディングオーダー支払スケジュールを定義することができます。

注意

一括払用のスタンディングオーダーは、個別払と類似しています。個別払は支払通知 (tfcmg1609m000) セッションで作成することができます。

スタンディングオーダーは、現預金管理で作成し処理することができます。買掛金で定期支払用の未決済取引を作成したい場合は、スタンディングオーダーでなく、定期取引購買請求書を作成する必要があります。

スタンディングオーダーの転記データ

スタンディングオーダーの転記データは、[前払金] または [コスト] のどちらかです。前払金の場合、請求元取引先の財務取引先グループから元帳勘定およびディメンションが取得されます。

LN の前払金の分類に基づいて、財務取引先グループから元帳勘定が決定されます。前払金の分類を使用するには、現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションで [前払金の分類の使用] チェックボックスをオンにする必要があります。ドイツでは、これらの分類で支払われた前払金を区別することが法的に義務付けられています。前払金の分類は、スタンディングオーダー (tfcmg1510m000) および支払通知ライン (tfcmg1101m000) セッションで選択できます。

コストに対するスタンディングオーダーをマニュアルで作成した場合、転記データ (たとえば、元帳勘定、ディメンション、キャッシュフロー理由、税金コード、課税国など) を指定する必要があります。

[コスト] タイプの (たとえば税金支払を目的とする) 作成済スタンディングオーダーの場合、設定詳細から元帳勘定およびディメンションが取得されます。

スタンディングオーダーの作成

スタンディングオーダーをマニュアルで作成するには

1. スタンディングオーダーの作成
スタンディングオーダー (tfcmg1510m000) セッションで、特定の請求元取引先用のスタンディングオーダーを作成します。
一括払スタンディングオーダーの場合は、[一括払] チェックボックスをオンにします。[転記方法] フィールドで、取引タイプ ([前払金] または [コスト]) を選択します。
2. 分割払の設定
[一括払] チェックボックスがオフの場合、支払用の支払スケジュールを定義または作成する必要があります。適切なメニューで、次のいずれかのコマンドをクリックします。
 - [スタンディングオーダーの自動分配]
スタンディングオーダーの自動分配 (tfcmg1112m000) セッションが開始されます。セッションの目的: スタンディングオーダーの合計金額をいくつかの期間にわたって自動的に分配します。
 - [スタンディングオーダー支払スケジュール]
スタンディングオーダー支払スケジュール (tfcmg1511m000) セッションが開始されます。セッションの目的: スタンディングオーダーの支払スケジュールを定義します。
3. 転記データを指定します。
[コスト] タイプのスタンディングオーダーについては、このセッションを使用して、スタンディングオーダー/個別払の転記データ (tfcmg1115s000) セッションの転記データを指定する必要があります。
このセッションの開始手順は、次のとおりです。
 - 一括払スタンディングオーダーの場合
スタンディングオーダー明細を保存し、スタンディングオーダー (tfcmg1510m000) 概要セッションで、スタンディングオーダーを選択します。適切なメニューで、[転記データのメンテナンス] をクリックします。
 - 支払スケジュールが適用されたスタンディングオーダーの場合
スタンディングオーダー支払スケジュール (tfcmg1511m000) セッションでスケジュールラインを選択し、適切なメニューで [転記データ] をクリックします。

前受金の払戻

前受金の払戻 (tfcmg6201m000) セッションを使用すると、取引先から回収した前払金を払い戻すことができます。ファクタリング会社や、その他のタイプの回収先取引先に前払金を振り戻すことができます。ファクタリング請求書については、顧客が請求書の支払を行わない場合、ファクタリング会社はその払い戻しを要求します。詳細は、次の情報を参照してください: ファクタリング (ページ 77) 選択した前払金に関する取引先の貸方票を作成する場合は、[払戻] ボタンを選択する必要があります。

中央請求で貸方票が構成、出力、転記されます。貸方票は、請求書 (cisli3105m000) セッションで表示できます。前払金の振戻後は、ファクタリング請求書の清算、払戻/買戻 (tfcmg6200m000) セッションで同額を買い戻す必要があります。詳細は、次の情報を参照してください: ファクタリング - 回収 (ページ 81)

[特定前払] ボタンを選択して、前払の指定 (tfcmg6211m000) セッションで選択した前払をリストする必要があります。このセッションを使用して、選択を絞り込むことができます。

マニュアル銀行取引

銀行取引はマニュアルで作成できます。銀行取引 (tfcmg2500m000) セッションでは、次の銀行取引を処理することができます。このセッションを開始するには、取引入力 (tfld1140m000) セッションで取引タイプとして [現預金] を選択する必要があります。

- 回収取引
顧客回収および貸方票の支払を処理する場合は、[取引タイプ] フィールドで [回収取引] オプションを選択します。
- 支払取引
発注先支払および貸方票の回収を処理する場合は、[取引タイプ] フィールドで [支払取引] オプションを選択します。
- 仮払金
請求書番号にリンクされていない仮払金の金額を処理する場合は、[仮払金] オプションを選択します。これらの支払は、後で次のセッションを使用して請求書に割り当てることができます。
 - 前払金/仮払金を請求書に割当 (tfcmg2131s000)
 - 仮払金/前払金を請求書に割当 (tfcmg2106s000)
- 仮受金
請求書番号にリンクされていない仮受金額を処理する場合は、[仮受金] を選択します。これらの回収は、後で次のセッションを使用して請求書に割り当てることができます。
 - 前受金/仮受金を請求書に割当 (tfcmg2130s000)
 - 仮受金/前受金を請求書に割当 (tfcmg2105s000)
- 前払金
請求書を受け取っていない前払金を処理する場合は、[前払金] を選択します。仮払金/前払金を請求書に割当 (tfcmg2106s000) セッションでは、前払金 (の一部) を請求書に割り当てることができます。
これらの支払は、後で次のセッションを使用して請求書に割り当てすることもできます。
 - 前払金/仮払金を請求書に割当 (tfcmg2131s000)
 - 仮払金/前払金を請求書に割当 (tfcmg2106s000)
- 現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションで [前払金の分類の使用] チェックボックスがオンの場合、転記方法が [前払金] のときには、前払金の分類を選択する必要があります。

- 前受金
前受金を処理する場合は、[前受金] オプションを選択します。仮受金/前受金を請求書に割当 (tfcmg2105s000) セッションでは、前受金 (の一部) を請求書に割り当てることができます。
これらの回収は、後で[現預金] 分類に属する取引タイプを選択して割り当てすることもできます。これには、次のセッションがリンクされています。
 - 前受金/仮受金を請求書に割当 (tfcmg2130s000)
 - 仮受金/前受金を請求書に割当 (tfcmg2105s000)
- 仕訳帳
会社間取引の処理や評価入力の表示を行う場合は、[仕訳帳] オプションを選択します。
- 回収および支払の調整
予定されている回収を調整する場合は、[回収調整] オプションまたは[支払調整] オプションを選択します。回収は支払/回収予定の調整 (tfcmg2102s000) セッションから選択できます。

現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションで [前払金の分類の使用] チェックボックスがオンの場合、転記方法が [前払金] のときは、前払金の分類を選択する必要があります。

ファクタリング

LNでは、売掛債権のファクタリング、および発注元が使用するファクタリング会社への購買請求書の支払をサポートしています。

売掛金に対し、販売請求書のファクタリング会社を設定できます。ファクタリング会社は回収先取引先となり、請求先取引先にリンクされている回収先取引先はオリジナル回収先取引先となります。

買掛金に対し、発注元が請求書のファクタリングを行う場合、支払先取引先のファクタリング会社およびファクタリング会社の銀行を指定できます。購買請求書の支払は、ファクタリング会社に対して行われます。

通常、ファクタリング対象の債権に対するファクタリング会社の前払をファクタリング会社から受け取ります。通常、ファクタリング会社の前払は、ファクタリング額の70%から80%になります。

売掛金のファクタリング

ファクタリング会社は債権を購入する、またはその支払を行う取引先です。ファクタリング会社は顧客(回収取引先)から金額を回収します。オリジナル回収先取引先にファクタリング会社に直接支払を行うよう通知されると、販売請求書のオリジナル回収先取引先はファクタリング会社に取り替えられます。

通常、ファクタリング対象の債権に対するファクタリング会社の前払をファクタリング会社から受け取ります。通常、ファクタリング会社の前払は、ファクタリング額の70%から80%になります。

次のファクタリングがあります。

- 償還によるファクタリング: ファクタリング会社は債権に対してローンを作成します。会社は継続してクレジットリスクを負っているため、顧客が支払を行わない場合には、ファクタリング会社に払戻をする必要があります。顧客の信用チェックが芳しくない場合、償還によるファクタリングを使用できます
- 償還なしのファクタリング: ファクタリング会社は債権を購入し、顧客からの未払リスクを負います。不良負債を避けるため、ファクタリング会社では債権を購入する前に顧客の信用チェックを行います

債権が発生したら債権をファクタリングしたり、特定の顧客に対して指定した期間指定した与信限度額でファクタリング対象の債権における一般的な合意を行うことができます。債権が発生し債権をファクタリングする場合、顧客は請求書を受け取った後にファクタリング会社に支払を行うよう通知されます。債権をファクタリングするよう合意している場合、顧客に対してはファクタリング会社の住所が支払先住所として請求書に出力され、ファクタリング会社に支払を行うよう通知されます。

債権を複数のファクタリング会社でファクタリングできます。したがって、1つの取引先の債権を複数のファクタリング会社に割り当てることができます。

顧客が支払をしなかった場合、および償還によるファクタリングが適用されている場合、未払額をファクタリング会社に払い戻す必要があります。このような場合、オリジナル回収先取引先から未払額を復元してください。結果として、オリジナル回収先取引先の情報がシステムで利用可能になります。

顧客の貸方票を作成する場合、取引先からの債権額は減少します。貸方票が作成されると、ファクタリング会社に送付されるため、取引先から実際の未払額が通知されます。

複数会社構造では、売掛金のファクタリングは財務会社ごとに管理されます。債権のファクタリングを決定する場合、財務会社の売掛金に切り替え、必要な場合はオフにすることができます。

一般的に、売掛金のファクタリングは次のステップから構成されます。

- ファクタリング会社を請求書に割り当てます
- 債権をファクタリング会社に送付します
- 顧客が支払を行ったときに、ファクタリング対象請求書を清算します

詳細については、ファクタリング販売請求書进行处理するには (ページ 79)を参照してください。

売掛金のファクタリングを設定するには

販売請求書のファクタリングを設定するには、次の順にセッションを使用します。

1. 会社パラメータ (tfld0503m000)
現在の財務会社を通して処理されている売掛金をファクタリングするには、[請求書のファクタリングを実施] チェックボックスをオンにします。複数会社構造では、ファクタリングを使用する財務会社ごとに必ずオンにしてください。
2. 売掛金パラメータ (tfacr0500m000)
償還なしのファクタリングと償還によるファクタリングの取引タイプを定義します。取引タイプは次のいずれかの分類に該当しなければなりません。
 - [償還による送付] には、[振替仕訳] を使用します。
 - [償還によらない送付] には、[販売請求書] を使用します。
3. 取引先グループ別元帳勘定 (tfacr0111m000)
[ファクタリング請求書] タイプの取引に使用する元帳勘定およびディメンションを選択します。
4. 現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000)
[ファクタリング] タブで次のデータを入力します。
 - [手数料]
[元帳勘定]
 - [偶発債務]
[元帳勘定]

- [一般]
[一部支払の手数料]
[払戻時に借方票を作成]
 - [取引タイプ]
[請求書の再オープン/買戻]
[償還による請求書の清算/買戻]
5. 取引先 (tccom4100s000)
各ファクタリング会社を取引先として定義し、[ファクタリング会社] チェックボックスをオンにします。取引先に対して請求先および回収先役割を定義する必要があります。
 6. ファクタリング会社別回収先取引先 (tfacr0116m000)
回収先取引先をファクタリング会社に割り当てます。1つの回収先取引先を複数のファクタリング会社に割り当てることも、ファクタリング会社の1つを取引先のデフォルトファクタリング会社として指定することもできます。

買掛金のファクタリングを設定するには

購買請求書のファクタリングを設定するには、次の順でセッションを使用します。

1. 取引先 (tccom4100s000)。各ファクタリング会社を取引先として定義し、[ファクタリング会社] チェックボックスをオンにします。取引先に対して請求元および支払先役割を定義する必要があります。ファクタリング会社に親取引先を選択しないでください。また、他の取引先の親としてファクタリング会社を選択しないでください
2. ファクタリング会社別支払先取引先 (tfacr1106m000)。常に請求書のファクタリング会社となる支払先取引先をファクタリング会社に割り当てることができます。1つの支払先取引先を複数のファクタリング会社に割り当てたり、ファクタリング会社の1つを取引先のデフォルトファクタリング会社として指定することもできます
3. ファクタリング会社を伝票に割当 (tfacr2247m000)。必要に応じて、このセッションを使用して、すでに登録済の請求書を支払先取引先からファクタリング会社へ、またはファクタリング会社から別のファクタリング会社へ再度割り当てることができます

ファクタリング販売請求書を処理するには

償還なしの請求書のファクタリング

すべての販売請求書の償還なしのファクタリングに合意している場合、次の順でセッションを使用します。

1. 請求書の構成/出力/転記 (cisli2200m000)。ファクタリング会社の住所を販売請求書の送金先住所として出力します
2. 伝票をファクタリング会社へ送付 (tfacr2212m000)。請求書または貸方伝票の範囲を選択し、ファクタリング会社へ送付します
3. ファクタリング会社からの回収を通常の方法で請求書に割り当てます。償還なしのファクタリングでは、ファクタリング会社から支払を全額回収すると、ファクタリング伝票の状況が自動的に [清算] に変わります

伝票をファクタリング会社へ送付 (tfacr2212m000) セッションでファクタリング会社へ請求書を送付すると、選択した各伝票に対して、LN では取引先の与信限度額に対して選択した請求書の合計額がチェックされます。ファクタリング会社別回収先取引先 (tfacr0116m000) セッションで定義した与信限度額内の請求書/貸方票のみが、自動的に選択されます。与信限度額内の払戻可能な伝票数を増やすには、LN で指定した範囲から貸方票とマイナス請求書を選択します。

財務会計転記の詳細については、償還なしのファクタリング (ページ 110)を参照してください。

償還なしの個々の請求書のファクタリング

ファクタリング会社の個々の販売請求書があり、これらが償還なしで処理される場合、次の順でセッションを使用します。

1. ファクタリング会社を伝票に割当 (tfacr2210m000)。請求書または貸方票の範囲をファクタリング会社へ割り当てます
2. ファクタリング会社を特定伝票に割当 (tfacr2211m000)。オプションとしてこのセッションを使用して、ファクタリング会社を伝票に割当 (tfacr2210m000) セッションで選択した伝票を表示し、選択を絞り込むことができます
3. マニュアルで顧客に対しファクタリング会社に対して支払を行うよう通知します
4. 伝票をファクタリング会社へ送付 (tfacr2212m000)。ファクタリング会社へ請求書の範囲を送付します
5. 特定伝票の送付 (tfacr2215m000)。オプションとしてこのセッションを使用して、ファクタリング会社へ送付する請求書の範囲を絞り込むことができます
6. ファクタリング会社からの回収を通常の方法で請求書に割り当てます。償還なしのファクタリングでは、ファクタリング会社から支払を全額回収すると、ファクタリング伝票の状況が自動的に [清算] に変わります

財務会計転記の詳細については、償還なしのファクタリング (ページ 110)を参照してください。

償還による販売請求書のファクタリング

ファクタリングが償還によるファクタリングである場合、次の順にセッションを使用します。

1. 請求書の構成/出力/転記 (cisli2200m000)。ファクタリング会社の住所を販売請求書の送金先住所に出力します
2. 伝票をファクタリング会社へ送付 (tfacr2212m000)。請求書または貸方伝票の範囲を選択し、ファクタリング会社へ送付します
3. 特定伝票の送付 (tfacr2215m000)。オプションとしてこのセッションを使用して、ファクタリング会社へ送付する請求書の範囲を絞り込むことができます
4. ファクタリング会社からの通知を待ちます

状況によっては、次のアクションを続行します

- 顧客が支払を行った場合、請求書を清算できます
- 顧客がまだ支払を行っていない場合、ファクタリング会社へ払い戻す必要があります

請求書を清算するには、次のセッションを使用します。

1. 仮受金/前受金を請求書に割当 (tfcmg2105s000)。また行っていない場合は、前払金を請求書に割り当てます

2. ファクタリング請求書の清算、払戻/買戻 (tfcmg6200m000)。ファクタリング請求書を清算し、ファクタリング会社に払い戻しするための条件を作成する入力振り戻します
3. 特定請求書の清算、払戻/買戻 (tfcmg6100m000)。オプションとしてこのセッションを使用して、清算する伝票の範囲を絞り込むことができます

財務会計転記の詳細については、償還によるファクタリング (ページ 109)を参照してください。

ファクタリング会社に払い戻すには、次のセッションを使用します。

1. ファクタリング請求書の清算、払戻/買戻 (tfcmg6200m000)。ファクタリング会社に対する未払額の貸方票を作成します。この金額は未払請求書のファクタリング会社による支払済金額です
2. 特定請求書の清算、払戻/買戻 (tfcmg6100m000)。オプションとしてこのセッションを使用して、処理する前に伝票の範囲を絞り込むことができます。現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションで [払戻時に借方票を作成] チェックボックスをオンにしている場合、LN ではオリジナル回収先取引先に対する借方票が作成されます。このチェックボックスがオフの場合、LN ではオリジナル請求書が再オープンされます
3. 前受金の払戻 (tfcmg6201m000)。ファクタリング会社から回収し、未払請求書に関連した前払金を払い戻します
4. 前払の指定 (tfcmg6211m000)。オプションとしてこのセッションを使用して、前受金の払戻 (tfcmg6201m000) セッションで作成した払い戻す必要のある前払の範囲を絞り込むことができます

財務会計転記の詳細については、償還によるファクタリング (ページ 109)を参照してください。

ファクタリング - 回収

ファクタリング会社からの回収

償還によるファクタリングおよび償還なしのファクタリングでは、ファクタリング請求書に関するすべての回収取引に対しファクタリング会社はデフォルト回収先取引先となります。ファクタリング請求書が回収のために選択されると、回収額は請求額 - ファクタリング手数料 - 請求書に適用する控除額となります。

回収の請求書を次のセッションで選択できます。

- 口座引落用請求書の選択 (tfcmg4220m000)
- 口座引落通知 (tfcmg4509m000)
- 回収予定 (明細) (tfcmg2117s000)
- 銀行取引 (tfcmg2500m000)

これらのセッションにもファクタリング手数料が表示されるため、正味請求額の計算方法も確認できます。請求額、ファクタリング手数料、および回収先取引先を変更できます。

デフォルトファクタリング手数料は、現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションの [一部支払の延滞金利/割引] および [一部支払の手数料] に入力した値に依存します。[ファクタリング] 勘定は現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションで指定されます。

注意

回収が転記されると、ファクタリング手数料は控除として扱われます。

レポートが通常回収として扱われる場合、仕訳は次のようになります。

[借方/貸方]	[元帳勘定]
借方	銀行口座
借方	ファクタリング手数料勘定
借方	割引/その他控除
貸方	顧客統制勘定

回収が前払として扱われる場合は、前払の作成時に仕訳が次のように行われます。

[借方/貸方]	[元帳勘定]
借方	銀行口座
貸方	前受金勘定科目

前払が請求書に割り当てられる場合

[借方/貸方]	[元帳勘定]
借方	前受金
借方	ファクタリング手数料勘定
借方	割引/その他控除
貸方	顧客統制勘定

未割当前払の払戻

償還によるファクタリングおよび償還なしのファクタリングでは、ファクタリング会社の貸方票を使用して前払金の未割当金額を払い戻すことができます。

貸方票が作成されると、LN では次の入力で作成されます。

[借方/貸方]	[元帳勘定]
借方	前受金勘定科目
借方	ファクタリング手数料 勘定
貸方	ファクタリング統制勘 定

ファクタリング請求書勘定および [偶発債務] 勘定の入力を振り戻すには、払い戻した前払金に係る請求書を買戻しまたは再オープンする必要があります。

ファクタリング手数料

ファクタリング手数料は、ファクタリング会社がユーザの会社に支払を行うときに適切な勘定科目に転記されます。請求書が支払スケジュールにリンクされている場合、ファクタリング手数料を各分割払に均等に割り当てる必要があります。

ファクタリング手数料の正味額は、一度だけ転記されます。ファクタリング手数料は伝票ごとには転記されません。ファクタリング会社から回収した支払伝票に対する回収予定が作成されると、ファクタリング手数料が転記データに指定されているように実際の控除勘定科目または中間控除勘定科目に転記されます。ファクタリング手数料が回収予定の実際の勘定に転記される場合、調整中に再転記しないようにしてください。

ファクタリング手数料の転記は、次のセッションで行われます。

- 支払/回収予定の調整 (tfcmg2102s000)
- 銀行取引 (tfcmg2500m000) (通常回収/送金通知の場合)
- 仮受金/前受金を請求書に割当 (tfcmg2105s000)

現預金割当の設定

現預金割当を設定するには

1. 現預金管理パラメータ (tfcmg0500m000)
[現預金明細] タブの [現預金の割当オプション] セクションで、超過支払および支払不足を許可するかどうかを指定し、これらの支払の発生時に行うアクションを選択します。
2. 請求パラメータ (cisli0100m000)
このセッションを使用して、次の項目を指定します。
 - 財務会計で作成された借方票および貸方票の取引タイプおよび取引シリーズ
 - 借方票および貸方票のビジネス要求に使用されている請求バッチテンプレートおよび請求オプションテンプレート
 - 借方票および貸方票を出力するデバイスおよびパス
3. 銀行リレーション (tfcmg0110s000)
このセッションでは、送金の振戻仕訳取引の転記の振戻仕訳タイプを指定します。取引タイプには [現預金] 分類が必要です。
4. 財務取引先グループ (tfacr0110m000)
支払不足を許可している場合は、このセッションで [合意済支払不足] 取引タイプを入力し、支払不足金額の元帳勘定を指定します。
5. 請求オプション (cisli1120s000)
貸方票のデフォルト取引タイプを上書きする場合、このセッションで [貸方票別取引タイプの上書き] チェックボックスをオンにします。
6. 請求バッチテンプレート (cisli1125m000)
このセッションでは、財務会計で作成された借方票および貸方票が請求バッチで構成できるかどうかを指定します

現預金割当手順

現預金割当を実行するには、次の順にセッションを使用します。

1. 送金通知 (tfcmg2150m000)
このセッションを使用して、受領した送金通知を入力します。

次のデータを入力する必要があります。

- 送金通知を識別するために使用する送金コード
- 回収先取引先
- 送金日付
- 銀行リレーション
- 送金通貨
- 送金額
- 信用アナリスト

このセッションの残りのフィールドはオプションです。

2. 送金通知ライン (tfcmg2151m000)

このセッションを使用して、次の操作を行います。

- 送金を適用する請求書を選択します。請求書はマニュアルで選択することも、基準を指定して自動的に選択することもできます。
- 請求書に対して提示された現預金割当を表示します。
- アプリケーションに変更を加えます。
- 送金を請求書に適用します。送金通知状況が [消込済] に変更されます。
- 必要に応じて、アプリケーションおよび転記振戻取引を振り戻します。[消込済] 状況になっている送金通知の振戻取引のみ転記できます。状況が [ドラフト] に変更されます。未適用金額合計がゼロの場合は、状況が [消込済] に変更されます。

3. 取引入力 (tfldl1140m000)

このセッションは、前受金または仮受金のバッチを作成するために使用します。銀行取引の取引タイプを選択して、銀行取引 (tfcmg2500m000) セッションを開始します。

4. 銀行取引 (tfcmg2500m000)

このセッションでは、送金を入力して送金通知から回収をメンテナンスできます。送金通知は、[消込済] 状況にしてください。このコードを入力すると、LN では送金明細通知から請求書番号と請求書明細が読み込まれます。日付と送金レートのみ変更できます。バッチをファイナライズすると、送金通知の状況が [転記済] になります。前受金または仮受金を送金通知に割り当てるには、次を実行します。

- a. [取引タイプ] フィールドで、必要に応じて [前受金] または [仮受金] を選択します。
- b. 適切なメニュー で、[前受/仮受金を送金通知に割り当てる] をクリックします。
- c. 送金の割当 (tfcmg2250m000) セッションで、該当する送金通知を選択します。
- d. ツールバーの [割当] をクリックします。
- e. 表示されるダイアログボックスで [OK] をクリックします。
- f. 構成済借方票/貸方票の出力および転記をマニュアルで行うには、適切なメニュー で [販売請求の転記] をクリックします。

5. [販売請求の転記] コマンドをクリックしたかどうかに応じて、次のセッションが適用されます。

[販売請求の転記] をクリックした場合:

- 請求書 (cisli3105m000)
このセッションを使用して、送金通知の処理により発生した借方票および貸方票の明細を表示します。この明細には、請求書番号、借方票/貸方票の対象となる取引先、および借方票/貸方票金額が含まれます。
- 請求バッチ (cisli2100m000)
LN でこのセッションが自動的に実行され、借方票/貸方票が構成されます。請求パラメータ (cisli0100m000) セッションで指定された請求バッチテンプレートを使用して、

新しい請求バッチが自動的に作成されます。構成済借方票/貸方票が自動的に出力され、転記されます。これに対応する未決済取引とファイナライズされていない取引入力、処理中に作成されます。

- 請求書 (cisli2505m100)
このセッションでは、ラインをダブルクリックして請求書明細を表示すると、請求書に関連付けられているのが借方票なのか貸方票なのかを確認できます。

[販売請求の転記] をクリックしなかった場合:

- 支払不足の通知を出力 (tfcmg2453m000)
セッションの目的: 借方通知書を出力します。

取引先統計

顧客の回収実績の詳細は、売掛金モジュールから回収先取引先統計の更新 (tfcmg3200m000) セッションを使用してインポートされ、発注先の支払詳細は、買掛金モジュールから支払先取引先統計の更新 (tfcmg3202m000) セッションを使用してインポートされます。

取引先に関する次の統計が更新されています。

- 未決済額
請求書および貸方票や借方票を参照した未払金額総計
- 平均未決済日数
各未決済金額を請求日から終了日までの期間日数で乗算し、その合計金額を未決済合計金額で除算して算出される日数
- 回収金額または支払済金額
ある一定期間における実際の受取済または支払済合計金額。この金額は予定額を含みません。
- 平均回収期間
回収金額または支払済金額をそれぞれ請求日から受取日または支払日までの日数で乗算し、その合計金額をある一定期間における受取済または支払済合計金額で除算して算出される期間
- 支払期限超過平均日数
回収金額または支払済金額をそれぞれ期日から受取日または支払日までの日数で乗算し、その合計金額をある一定期間における受取済または支払済合計金額で除算して算出される期間
- 支払差額
請求額と支払額との差異。支払差額は、ユーザ定義範囲内にある場合、自動的に承認して償却できます。
- 許容割引額
ある取引先の未払総額に対して決定される割引総額。LN では、取引に適用される支払条件に従って、1 回目、2 回目、または 3 回目に控除を要する現金割引が決定されます。この金額は期間ごと、取引先ごとにメンテナンスされます。
- 実際割引額
ある一定期間に実際に控除のあったすべての割引の合計
- 控除可能延滞金利
商品の金額または提供されたサービスに関して、指定期間内に請求書が支払われない場合に、請求書の受取人が支払う必要がある手数料

- 実際延滞金利
実際延滞金利

現預金予測

任意に指定した時期に、会社の流動性ポジションを判断することは非常に重要です。このポジションに基づいて、会社は借金をするか、短期ポジションを改善するかを判断できます。さらに、会社は現預金余剰があるかどうか分かるので、銀行の普通口座よりも高い利率で資金を投資することができます。

予測をたてられるのは、請求書や購買請求書などの既知の資産および負債、そして購買オーダーや販売見積などの将来的な資産および負債に関してのみです。

予測は、現預金予測の更新 (tfcmg3210m000) セッションで次のデータに基づいて計算できます。

- マニュアル請求書と利息請求書
LN では、予定入出金日を支払スケジュールまたは次のオプションのいずれかを使用して定義します。
 - 期日: この日付は、回収先取引先 (tccom4114s000) セッション → [支払] タブ → [期日後の遅延日数] フィールドで定義します。
 - 予定入出金日: この日付は、販売請求書入出金日 (tfcmg3110m000) → [特別日数] フィールドでマニュアルで指定します。
 - 平均回収期間: 回収先取引先統計の更新 (tfcmg3200m000) セッションで、平均回収期間を請求日に加算して計算します。
支払スケジュールを利用できない場合は、流動日に基づいてマニュアル請求書と利息請求書を選択できます。
- 販売請求書
販売請求書の予測受取日は、次の日付のいずれかにすることができます。
 - 期日: この日付は、回収先取引先 (tccom4114s000) セッション → [支払] タブ → [期日後の遅延日数] フィールドで定義します。
 - 予定入出金日: この日付は、販売請求書入出金日 (tfcmg3110m000) → [特別日数] フィールドでマニュアルで指定します。
 - 平均回収期間: 回収先取引先統計の更新 (tfcmg3200m000) セッションで、平均回収期間を請求日に加算して計算します。
 - 不良販売請求書
不良販売請求書 (tfacr2140m000) セッションを使用して不良と設定されている請求書は、現預金予測計算から除外できます。
 - 問題販売請求書
問題/理由 (tfacr0120m000) セッションで [問題/理由] コードにリンクされている請求書は、現預金予測計算から除外できます。

- 販売オーダー
現預金予測の流動日は、指定された納期に基づいて計算します。あるいは、オーダーに指定されている [計画済納期] を使用します。さらに、回収先取引先 (tccom4114s000) セッション → [支払] タブ → [期日後の遅延日数] フィールドで指定された期間も使用します。
- プロジェクトオーダー
LN は、クローズされていないプロジェクトの分割払を計算に入れます。計画請求書日付が使用されるか、あるいは請求書 (第一選択) または取引先からの支払条件が現在の日付に追加されます。これらの条件がない場合には、現在の日付に 30 日が加算されます。
- 販売見積
取引先データから取得された支払条件に計画納期を加えて算出された日が、流動日として使用されます。売上見積には個別の成功率があります。見積の成功率が入力された成功率以上の場合、その見積が採用されます。代替見積は一切考慮されません。
- 購買請求書
 - 入出金日は、次のいずれかのオプションに基づいて計算します。
 - 期日: この日付は、回収先取引先 (tccom4114s000) セッション → [支払] タブ → [期日後の遅延日数] フィールドで定義します。
 - 予定入出金日: この日付は、購買請求書入出金日 (tfcmg3111m000) → [特別日数] フィールドでマニュアルで指定します。
 - 平均回収期間: 支払先取引先統計の更新 (tfcmg3202m000) セッションで、平均回収期間を請求日に加算して計算します。
 - 割引日: この日付は支払条件に指定します。
 - ブロック済購買請求書
保留理由 (tfacp0120m000) セッションで [保留理由] にリンクされている請求書も、現預金予測計算から除外できます。
- 登録済請求書
 - 入出金日は、次のいずれかのオプションに基づいて計算します。
 - 期日: この日付は、回収先取引先 (tccom4114s000) セッション → [支払] タブ → [期日後の遅延日数] フィールドで定義します。
 - 予定入出金日: この日付は、購買請求書入出金日 (tfcmg3111m000) → [特別日数] フィールドでマニュアルで指定します。
 - 平均回収期間: 支払先取引先統計の更新 (tfcmg3202m000) セッションで、平均回収期間を請求日に加算して計算します。
 - 割引日: この日付は支払条件に指定します。
- 購買オーダー
流動日を計算するには、次のいずれかのオプションを使用します。
 - 確定納期
 - 納期
 - 現在の計画納期
 - 計画納期: オーダーに定義されている [支払条件] を計画納期に加算するか、あるいは請求元取引先 (tccom4122s000) セッションで定義されている [支払条件] を使用します。
- スタンディングオーダー
流動日は次のように定義されます。
 - 通常払: スタンディングオーダーの支払スケジュールに基づく計画支払日
 - 固有払: スタンディングオーダーに基づく計画支払日注意: どちらの日付にも、支払先取引先データの特別日数が加算されます。

- 購買要求
購買要求の流動日を定義するには、[要求品目入庫日] を使用します。請求元取引先 (tccom4122s000) セッションで定義されている [支払条件] も使用します。
- 予算
上記で言及されていないその他の取引で、将来的に支払または回収を行わなければならない場合は、特定の予算を設定し、その予算にその他の取引を追加することができます。例: 支払う予定の給与および賃金、税金、または将来的な投資取引は、次のように支出報告する必要があります。
 - 貸借対照表勘定の借方残高は、回収として計算します。
 - 貸借対照表勘定の貸方残高は、支払として計算します。
 - 損益勘定の借方残高は、支払として計算します。
 - 損益勘定の貸方残高は、回収として計算します。
 予算金額を流動日に割り当てるために、LN の [入出金日] フィールドを計算に入れて、予算現預金予測期間が自動的に算出されます。特定の期間の予算データはすべて、LN によって算出された流動期間に追加されます。

未来の日付の予定現金位置。現在の現預金額は全期間内の受取予定額により増額され、また支払予定額により減額されます。

現預金予測レポートと問合せ

キャッシュフロー予測を行うには、次の内容から組み合された情報を使用します。

- 顧客勘定および発注先勘定
- 未決済の販売オーダーおよび購買オーダー
- 購買見積
- 購買要求
- スタンディングオーダー
- プロジェクト
- 財務予算

銀行リレーション (tfcmg0510m000) セッションでメンテナンスされている銀行リレーションの銀行残高を使用して、指定期間中の会社の現預金の入出金の明細が記載されたレポートを作成できます。

マニュアルで現預金予測の開始残高を指定することもできます。次のセッションを使用して、レポートの出力と作成を行います。

- 日付範囲/通貨別現預金予測要約 (tfcmg3518s000)
- 日付範囲/通貨別現預金予測明細の出力 (tfcmg3412m000)
- 期間/通貨別現預金予測要約の出力 (tfcmg3410m000)
- 日付/通貨別現預金予測要約 (tfcmg3519s000)
- 現預金予測通貨での明細現預金予測の出力 (tfcmg3413m000)
- 日付/通貨別現預金予測構成要素 (tfcmg3520m000)
- 日付/通貨別予測構成要素の出力 (tfcmg3420m000)

期日計算

請求書または支払スケジュールラインの期日を決定する方法はいくつかあります。支払条件 (tcmcs0113s000) セッションで、期日の算出方法を指定することができます。

請求書の伝票日付 (作成日) は、期日計算の基準です。最終期日は次の明細によって決定されます。

- 支払条件 (tcmcs0113s000) セッション内
 - 支払期間
支払期間は、実際の期日を求めるために期日計算前または後に請求書の伝票日付に追加される日数または月数です。
 - 期日計算方法
期日計算のアルゴリズム
 - 固定支払日
支払期日の月の特定日。固定支払日を指定した場合、計算期日は次の固定支払日に変更されます。固定支払日は、最大 3 つまで指定することができます。たとえば、各月の 1 日、10 日、および 12 日です。
- 支払カレンダー
回収先取引先および自己財務会社に対し、必要に応じて支払カレンダーを定義することができます。計算期日が支払カレンダーで祝祭日としてマークされている場合、期日は前の就業日、また状況によっては次の就業日に変更されます。この結果として、実際期日が確定されます。

期日後の追加日数

追加日数は、回収先取引先 (tccom4114s000) セッションおよび支払先取引先 (tccom4124s000) セッションの [期日後の遅延日数] フィールドで指定できます。たとえば、銀行が資金振替に要する日数です。

[期日後の遅延日数] フィールドは、財務会計で次の用途に使用されます。

- 販売請求書 (tfacr1110s000) セッションで、予定支払日を計算します。
- 購買請求書入出金日 (tfcmg3111m000) セッションで、予定支払日をメンテナンスします。
- 現預金予測の更新 (tfcmg3210m000) セッションで、予定支払日に基づいてキャッシュフロー予測を計算します。

期日計算方法

請求書または支払スケジュールラインの期日を決定するには、いくつかの方法があります。

支払条件 (tcmcs0113s000) セッションで、次の期日計算方法のいずれかを選択することができます。

- [即時]
- [月末]
- 支払の期間タイプが [日数] の場合にのみ、以下が適用されます。
 - [15 日間の最終日]

- [10日間の最終日]
- [週の最終日]

[即時]

[即時] 期日計算方法では、単に支払期間が伝票日付に追加されるだけです。

例

購買請求書 PUR 20000123 の明細は次のとおりです。

- 伝票日付は 2007 年 2 月 23 日です。
- 支払期間は 10 日間です。
- 支払期間のタイプは [日数] です。
- 期日計算方法は [即時] です。
- 固定支払日は指定されていません。

期日は、伝票日付プラス支払期間で計算されます。

計算結果の期日は 2007 年 3 月 5 日になります。

[月末]

[月末] 方法では、期日計算用に次の 2 つの付加的な係数を選択することができます。

- 期日計算の優先順位
期日計算の優先順位が [月末] の場合、請求書が作成された月の末日が取り上げられ、それに支払期間が加えられます。
- 期日計算の優先順位が [支払期間] の場合、まず伝票日付に支払期間が加えられます。次に、その結果の日付が属する月の末日が期日として使用されます。
- 期日タイムフェンス
このフェンスにより、それ以前に請求書が作成されていなければならない月の固定日が定義されます。請求書の伝票日付が期日フェンスよりも後の場合、ひと月全体が計算に加えられます。

例

購買請求書 PUR 20000456 の明細は次のとおりです。

- 伝票日付は 2007 年 2 月 23 日です。
- 支払期間は 10 です。
- 支払期間のタイプは [日数] です。
- 期日計算方法は [月末] です。
- 期日フェンスは 20 (月の 20 日) です。
- 期日計算の優先順位は [月末] です。
- 固定支払日は各月の 5 日、15 日、および 25 日です。

計算結果の期日は 2007 年 4 月 15 日になります。この計算は次のとおりです。

- 期日計算の優先順位が [月末] なので、請求書が作成された月の最終日を採用することが指定されます。この場合は 2007 年 2 月 28 日になります。

- 期日フェンスは月の 20 日です。これは、伝票日付が 2 月 20 日以前の場合、請求書の期日計算は 2 月から開始されることを意味します。この例は 20 日より後であるため、翌月の末日 (2007 年 3 月 31 日) が計算基準として使用されます
- 期日は支払期間を当月の終了日に追加することによって計算されます。この場合の計算結果は 2007 年 4 月 10 日になります。
- この日付は次の固定支払日まで延長する必要があります。これは期日が 2007 年 4 月 15 日であることを意味します。

例

この例の場合、タイムフェンスおよび期日計算の優先順位による影響は、次のとおりです。

- タイムフェンス
伝票日付が 2007 年 2 月 13 日の場合、タイムフェンス (2007 年 2 月 20 日) を超えない限り、期日は 2007 年 3 月 15 日です。
- 期日計算の優先順位
期日計算の優先順位が [支払期間] の場合は、結果の期日は 2007 年 3 月 31 日になります。この計算は次のとおりです。
 - 優先順位によって、まず支払期間を伝票日付に加えないことが決定されます。次に、その結果の日付が属する月の末日が使用されます。
 - その結果が (移動時に) タイムフェンスより後の日付の場合、期日は翌月に入れる必要があります。
 - 期日は伝票日付プラス支払期間で計算され、2007 年 3 月 5 日となります。この日付は月の 20 日より前なので、日付を月末まで移動することができます。したがって、結果として算出される期日は 2007 年 3 月 31 日です。

期間タイプが [月数] の場合、期日計算方法が [月末] で、期日計算の優先順位が [適用なし] でなければなりません。

例

購買請求書 PUR 2000789 の明細は次のとおりです。

- 請求日は 2007 年 3 月 25 日です。
- 支払期間は 3 です。
- 期間タイプは [月数] です。
- 期日計算方法は [月末] です。
- 期日フェンスは 20 (月の 20 日) です。

計算結果の期日は 2007 年 7 月 31 日になります。この計算は次のとおりです。

- 計算方法は [月末] であり、これは期日がその月の末日以降でなければならないことを意味します (優先度は適用されません)。
- タイムフェンスは 20 です。伝票日付が月の 20 日 (2007 年 3 月 20 日) より前の場合は、伝票日付の月に対してのみ条件が有効となります。この例は 20 日以降であるため、翌月の末日 (2007 年 4 月 30 日) が使用されます。
- 期日は、支払期間を当月の最終日に追加することにより決定され、2007 年 7 月 31 日となります。

[15 日間の最終日]

2 週間の開始日は、1 日、15 日および 29 日です。

例

購買請求書 PUR 20000123 の明細は次のとおりです。

- 伝票日付は 2007 年 2 月 23 日です。
- 支払期間は 10 日間です。
- 支払期間のタイプは [日数] です。
- 期日計算方法は [15 日間の最終日] です。
- 固定支払日は指定されていません。

伝票日付の翌々週の最初の日付に支払期間を追加して、期日が計算されます。

2007 年 2 月 23 日の翌々週の最初の日付は、2007 年 3 月 1 日になります。

結果として算出される期日は、2007 年 3 月 1 日 + 10 日 = 2007 年 3 月 11 日です。

[10日間の最終日]

期日計算方法が [10日間の最終日] の場合、伝票日付の次の 10 の倍数日後の最初の日付に支払期間を追加して、期日が計算されます。10 の倍数日の期間開始日は、各月の 1 日、11 日、21 日および 31 日です。

例

購買請求書 PUR 20000123 の明細は次のとおりです。

- 伝票日付は 2007 年 2 月 13 日です。
- 支払期間は 10 日間です。
- 支払期間のタイプは [日数] です。
- 期日計算方法は [10日間の最終日] です。
- 固定支払日は指定されていません。

伝票日付の翌々週の最初の日付に支払期間を追加して、期日が計算されます。

2007 年 2 月 13 日の次にくる 10 の倍数日後の最初の日付は、2007 年 2 月 21 日になります。

結果として算出される期日は、2007 年 2 月 21 日 + 10 日 = 2007 年 3 月 2 日です。

[週の最終日]

期日計算方法が [週の最終日] の場合、伝票日付の翌週の最初の日付に支払期間を追加して、期日が計算されます。週の最初の日付は、ツールの会社 (ttaad1100m000) セッションから取得されます。

例

購買請求書 PUR 20000123 の明細は次のとおりです。

- 伝票日付は 2007 年 2 月 13 日です。
- 支払期間は 10 日間です。
- 支払期間のタイプは [日数] です。

- 期日計算方法は [週の最終日] です。
- 会社 (ttaad1100m000) セッションでは週の最初の日が [日曜日] に当たります。
- 固定支払日は指定されていません。

伝票日付の翌週の最初の日付に支払期間を追加して、期日が計算されます。

2007 年 2 月 13 日の翌週の最初の日付は、2007 年 2 月 17 日になります。

結果として算出される期日は、2007 年 02 月 17 日 + 10 日 = 2007 年 2 月 27 日です。

1099-MISC レポート

この機能はアメリカ向けです。

アメリカでは、政府機関の国税庁 (IRS) が税法の施行に責任を負っています。1099-MISC 収益はこの規則の対象となる収益タイプの 1 つです。また、この規則では発注先支払は報告する必要があります。

1099-MISC レポートを設定するには

1099-MISC レポートを設定するには、以下のセッションを使用します。

- 一般会社データ (tccom0102s000)
適切なメニューの [支払人の 1099...] をクリックして、支払人の 1099 詳細 (tccom7137s000) セッションを開始します。
- 支払人の 1099 詳細 (tccom7137s000)
会社の支払人詳細を入力します。
- 1099 の主要支払先取引先 (tfcmg3106m000)
1099-MISC 課税の対象となる支払をレポートする必要がある取引先をリストします。支払先取引先が収益をレポートする取引先と異なる場合、このセッションを使用して、支払先取引先を1099-MISC 収益をレポートする取引先にリンクできます。
- 支払先取引先 (tccom4124s000)
適切なメニューの [1099 詳細] をクリックして、支払先取引先 1099 詳細 (tccom4126s000) セッションを開始します。
- 支払先取引先 1099 詳細 (tccom4126s000)
取引先の 1099-MISC 詳細を入力します。
- 1099 ボックス番号 (tfcmg1115m000)
1099-MISC 申告のボックス番号を定義します。様々なタイプの 1099-MISC 収益を分類するために IRS によって割り当てられたボックス番号
- 支払理由 (tfcmg0130m000)
レポートする必要のある支払の理由コードを定義します。理由コードごとに、[1099-MISC の届出に有効] チェックボックスをオンにします。
- 1099 ボックス番号の理由 (tfcmg1116m000)
理由コードをボックス番号にリンクします。

1099-MISC レポートを実行するには

1099-MISC レポートを実行するには、次のセッションを使用します。

- マニュアルによる支払の構成 (tfcmg1246m000)
1099-MISC 課税の対象となる支払は、[支払理由] フィールドで、1099-MISC ファイリングに有効な理由コードを入力します。
- ファイル 1099-MISC (tfcmg3204m000)
セッションの目的: 1099-MISC 所得支払情報の IRS への申告に使用する出力を作成します。

支払理由

注意

外国通貨での支払理由コードを銀行ファイルに追加するための要件は、北欧以外の国でも適用できます。

北欧用銀行ファイルを設定するには

北欧用銀行ファイル処理を設定するには、次の順にセッションを使用します。

1. 一般会社データ (tccom0102s000)
[会計 ID] フィールドに、会計の識別番号を入力します。
2. 現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000)
[銀行ファイル設定] グループボックスで、次の操作を行います。
 - [取引連番を使用] チェックボックスをオンにします。
 - [外貨払の理由] チェックボックスをオンにします。
3. 支払先取引先別銀行口座 (tccom4125s000)
[銀行費用] フィールドで、銀行費用を支払う会社を定義します。
4. 支払タイプ (tfcmg0504m000)
支払タイプ別にコードを定義します。
5. 支払/回収方法 (tfcmg0140s000)
支払方法を定義して、支払タイプを入力します。[支払/回収レポートグループ] フィールドに、支払方法を定義する銀行の銀行ファイルフォーマットを提供するレポートグループを入力します。外貨での支払に対する支払方法を使用する場合、[外貨払の理由を追加] チェックボックスをオンにします。
6. 支払理由 (tfcmg0130m000)
外貨での支払に対する理由コードを定義し、[追加記述の使用] チェックボックスをオンにします。支払理由コードを選択し、適切なメニューで[追加記述]をクリックして、理由別追加記述 (tfcmg0131m000) セッションを開始します。
7. 理由別追加記述 (tfcmg0131m000)
外貨での支払理由の追加記述を定義します。
8. 銀行リレーション (tfcmg0110s000)
銀行の拡張顧客コード、銀行ブランチコード、および銀行で使用されているユーザの事業の事業部コードを入力します。

9. 取引連番コード (tfcmg0513m000)
取引連番が必要な場合、各銀行との取引に使用される取引連番のセットを定義します。
10. 銀行ブランチ (tfcmg0511m000)
銀行詳細を定義し、銀行の顧客コードおよび銀行の SWIFT コードを入力します。取引連番が必要な場合、[連番コード] フィールドで、銀行との取引に使用される取引連番のセットを選択します。
11. 支払権限 (tfcmg1100m000)
銀行ファイルの支払者の ID を入力します。

銀行取引のデフォルト金額

銀行取引 (tfcmg2500m000) セッションで支払を入力すると、LN は、支払が関連付けられている請求書に記録されたデータをもとに、次のデフォルト金額を決定します。

- 支払予定額 (支払が購買請求書に関係する場合)
- 入金予定額 (支払が販売請求書に関係する場合)
- 割引額
- 延滞金利額

支払/回収スケジュールがあると、デフォルト金額の計算方法に影響を及ぼしますが、デフォルト割引額および支払延滞金利額はほかのデータに基づいて計算されます。またデフォルト許容支払差額も計算されます。

関連トピック

- 支払/回収スケジュール
- 割引/延滞金利
- 許容支払差額

支払/回収スケジュール

次のいずれかのセッションに請求書を登録すると、支払/回収スケジュールを請求書にリンクすることができます。

- 販売請求書 (tfacr1110s000)
- 購買請求書入力 (tfacp2600m000)

支払/回収スケジュールを請求書にリンクするには、適切なメニューで該当するコマンドを選択してください。支払/回収スケジュールは次のいずれかのセッションの請求書に定義されています。

- 回収スケジュール (tfacr1103m000)
- 支払スケジュール (tfacp1103m000)

支払を作成している請求書に支払/回収スケジュールがある場合、LN は支払日または回収日を基準としてデフォルト支払予定額を決定します。

例

購買請求書の支払予定額合計が 1,200 US ドルだとします。

支払スケジュール:

金額	支払期日
700 US ドル	2017-02-15
300 US ドル	2017-03-01
200 US ドル	2017-03-15

初回支払日が 2017 年 02 月 18 日だとすると、表示されるデフォルト支払金額は 700 US ドルです。

初回支払日が 2017 年 03 月 04 日だとすると、表示されるデフォルト支払金額は 1,000 (700 + 300) US ドルです。

初回支払日が 2017 年 02 月 10 日だとすると、表示されるデフォルト支払金額は 700 US ドルです。支払の作成日より前に支払金額がない場合は、LN により次の支払日で指定した金額が入力されます。したがって、支払日が 2017 年 02 月 10 日の場合のデフォルト支払金額は 700 US ドルになります。

割引/延滞金利

支払を作成している請求書に支払/回収スケジュールがない場合は、LN は次の値に基づいてデフォルト支払/回収予定金額を算出します。

- 支払/回収伝票日付
- 未決済請求金額
- 請求書に記録されている割引日

現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションの [一部支払の延滞金利/割引] パラメータは、一部支払の割引の計算方法を決定します。このパラメータが [なし] に設定された場合、デフォルト割引額は与えられません。

[一部支払の延滞金利/割引] パラメータが [比例的] に設定された場合は、デフォルト割引額が次の例のように計算されます。

例 1

買掛金購買請求額は 100 US ドルです。許容割引額は 8 US ドルです。

初回支払のデフォルト金額は、支払済金額は 92 US ドル、割引額は 8 US ドルです。

一部支払予定額が 20 US ドルだとすると、デフォルト割引は、 $1.74 \text{ US ドル} (20 \times 100 \div 92 \times 8 \div 100)$ となります。

したがって、2 回目の支払のデフォルト金額は、支払予定額は 72 US ドルとなります。

デフォルト割引額は $72 \times 100 \div 92 \times 8 \div 100 = 6.26 \text{ US ドル}$ となります。

[一部支払の延滞金利/割引] パラメータが [全額] に設定された場合は、デフォルト割引額が次の例のように計算されます。

例 2

買掛金購買請求額は 1,000 US ドルです。次の割引データは請求書に記載されています。

割引額 1:	20 割引日:	2017-01-01
割引額 2:	15 割引日:	2017-02-01
割引額 3:	5 割引日:	2017-03-01

初回支払に入力される支払済額は 800 US ドル、割引額は 18 US ドルです。

次回の一部支払の 200 US ドルが 2017 年 01 月 15 日に行われるとすると、デフォルト割引額はゼロです。支払の伝票日付に基づいて、LN はそのときに許容されている割引額 (15 US ドル) を決定します。この金額が最初の支払で計算された割引額 (18 US ドル) よりも小さい場合、デフォルト額はゼロになります。

注意

デフォルト支払金額は最初、請求通貨で計算されます。回収/支払通貨が請求通貨と等しくない場合、両通貨の為替交換レートに基づく請求通貨で計算されます。請求通貨に固定為替レートがある場合は、このレートが使用されます。

許容支払差額

支払差額許容範囲は、支払権限 (tfcmg1100m000) セッションで特定ユーザに対して定義された支払差額限度、または現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションでデフォルト値として定義された支払差額限度に依存します。

LN は、次に基づく請求書の許容支払差額を決定します。

- 未決済金額
- 請求額
- 定義済の支払差額許容範囲

例 1

請求書の金額は 1,000 US ドルです。次の許容範囲が支払差額に定義されます。

請求差額の予定下限 (%):	10%
請求差額の予定下限:	50 (参照通貨)

デフォルト支払差額は 50 です。

デフォルト支払差額は両条件を満たす必要があります。このケースでは、最初の条件は支払差額が 100 ($10\% \times 1,000 = 100$) より小さくなければならないことを表しています。一方、2 つ目の条件は支払差額は 50 より小さくなければならないことを表しています。したがって、デフォルト支払差額は 50 になります。

例 2

請求書の金額は 1,000 US ドルです。次の許容範囲が支払差額に定義されます。

請求差額の予定下限 (%): 3%

請求差額の予定下限: 50

デフォルト支払差額は 30 (3% x 1,000) です。

注意

実際支払の支払差額が許容デフォルト支払差額より大きい場合、表示されるデフォルト支払差額はゼロです。

前払金の分類

行われた前払を前払金の分類に応じて区別することを、企業に対して法的に義務付けている国もあります。

LN では、対応する取引先グループ別元帳勘定 (tfacp0111m000) セッションでユーザーが特定の分類にリンクしておいた元帳勘定に取引が転記されます。

- 有形固定資産
例: 次の資産の供給とストック
 - 土地
 - 資産
 - 機械
 - 設備
 - 前払金および建設仮勘定
- 無形資産
例:
 - 利権
 - ライセンス
 - 営業権
 - 前払金
- 在庫
例:
 - 原材料
 - 未製品
 - 完成品
 - 前払金
- 他の資産
例:
 - 関連会社内の株式
 - クレームおよびその他の資産
 - 納入の請求

-
- 関連会社に対する請求

取引タイプの使用

取引の入力は、取引タイプに基づいて行います。取引タイプは取引分類別にグループ化されます。

取引タイプによって、次のことが決まります。

- 取引入力時 ([リアルタイム処理])、またはバッチのファイナライズ時 ([バッチ処理]) に元帳履歴およびディメンション履歴を更新するかどうか
- 伝票番号の生成方法
- 伝票番号を連番にするかどうか
- 取引の入力に使用されるセッション

取引タイプは取引タイプ (tfld0511m000) セッションで定義できます。[履歴更新モード] フィールドは、LN が総勘定元帳履歴をいつ更新しなければならないかを定義します。[取引分類] フィールドは取引タイプが含まれる分類を定義します。

取引の伝票番号は取引タイプにより一緒に保持されます。伝票番号は 1 度だけ 1 つの取引タイプと組み合わせて使用できます。取引タイプおよび伝票番号内で取引ラインの入力ができます。このようにして、たとえば、元帳取引と未決済請求書との関連を調べることができます。

取引の作成に使用するセッションを定義するためには、取引タイプ (tfld0511m000) セッションの [メインセッション] フィールドおよび [次のセッション] フィールドを使用します。財務会計には、あらゆるタイプの取引に対応したセッションが用意されています。ただし、(Infor ツールで) 既存の標準セッションを別のセッションにコピーし、その設計を調整してカスタマイズしたセッションを取引タイプにリンクすることも可能です。

取引入力セッション

[取引分類] フィールドに入力した値に応じて、次の標準セッションを選択することができます。

- [振替仕訳]
メインセッション: 振替仕訳伝票 (tfld0618m000) は、振替仕訳に関するマルチラインデータを入力するセッションです。このセッションには、当初は非表示になっているカラムが多数含まれており、必要に応じて有効にすることができます。そのため、借方金額と貸方金額の入力も別になっています (別々のカラム)。
- [販売請求書] / [販売貸方票]
 - メインセッション: 販売請求書 (tfacr1110s000)
 - 次のセッション: 取引 (tfld1102m300)
- [販売訂正]
請求書に関する訂正のためのセッション:
 - メインセッション: 販売請求書訂正 (tfacr2110s000)
 - 次のセッション: 取引 (tfld1102m300)複数の販売請求書にリンクする貸方票のためのセッション:
 - メインセッション: 取引先 - 貸方票 (tfacr2120m000)
 - 次のセッション: 貸方票を請求書に割当 (tfacr2121m000)

請求書が不良であるか、あるいは非不良であることを示すためのセッション:

- 不良販売請求書 (tfacr2140m000)
- [購買請求書] / [購買貸方票]
購買請求書タイプが [費用請求書] および [購買オーダー関連請求書] の場合
 - メインセッション: 購買請求書入力 (tfacp2600m000)
 - 次のセッション: 適用なし
- [購買訂正]
購買請求書に関する訂正のためのセッション:
 - メインセッション: 購買請求書訂正 (tfacp2110s000)
 - 次のセッション: 取引 (tfgld1102m300)貸方票を複数の購買請求書にリンクするためのセッション:
 - メインセッション: 貸方票を請求書に割当 (tfacp2120m000)
 - 次のセッション: 請求書/スケジュールの貸方票への割当 (tfacp2121s000)
- [開始残高]
 - メインセッション: 振替仕訳伝票 (tfgld0618m000)
 - 次のセッション: 適用なし
- [現預金]
 - 現預金取引および銀行取引:
メインセッション: 銀行取引 (tfcmg2500m000)
 - 次のセッション: 取引 (tfgld1102m300)
 - 支払予定:
メインセッション: 支払予定 (tfcmg2110s000)
 - 次のセッション: 支払予定 (明細) (tfcmg2116s000)
 - 回収予定:
メインセッション: 回収予定 (tfcmg2111s000)
 - 次のセッション: 回収予定 (明細) (tfcmg2117s000)
 - 支払予定の状況を変更する場合:
メインセッション: 支払予定状況 (tfcmg2512m000)
 - 次のセッション: 支払予定 (明細) (tfcmg2116s000)
 - 回収予定の状況を変更する場合:
メインセッション: 回収予定状況 (tfcmg2513m000)
 - 次のセッション: 回収予定 (明細) (tfcmg2117s000)
 - 仮払金または前払金を購買請求書に割り当てる場合:
メインセッション: 前払金/仮払金を請求書に割当 (tfcmg2131s000)
 - 次のセッション: 仮払金/前払金を請求書に割当 (tfcmg2106s000)
 - 仮受金または前受金を販売請求書に割り当てる場合:
メインセッション: 前受金/仮受金を請求書に割当 (tfcmg2130s000)
 - 次のセッション: 仮受金/前受金を請求書に割当 (tfcmg2105s000)

取引入力デフォルト

取引タイプを取引タイプ (tfgld0511m000) セッションで定義したら、取引入力デフォルト (tfgld0131m000) セッションを開始して、選択したユーザによる取引入力可能な財務会社および取引タイプを定義します。また、デフォルトバッチ記述も定義できます。

償還によるファクタリング

償還によるファクタリングの場合、LN では、ここで説明する財務会計転記が作成されます。

ファクタリング会社への請求書の送付

請求書で償還によるファクタリングを実行する場合、請求書をファクタリング会社へ送付すると、LN で次の入力が行われ、顧客が支払わなかった際にファクタリング会社へ払い戻す条件が作成されます。

- 借方: ファクタリング請求書
- 貸方: ファクタリング請求書の偶発債務

転記された金額は、ファクタリング会社でファクタリングされた正味額です。この金額は次のようになります。

請求額 - 控除額 - 貸方票金額

請求書の清算

顧客が支払を済ませたという内容の通知がファクタリング会社から届いたら、ファクタリング請求書を清算する必要があります。LN で、次の入力が行われます。

- 借方: ファクタリング請求書の偶発債務
- 貸方: ファクタリング請求書

ファクタリング会社への払戻

顧客が支払わなかった場合、ユーザの会社はファクタリング会社へ払い戻す必要があります。ファクタリング会社に対して払い戻す金額の貸方票を作成する必要があります。

現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000) セッションの [払戻時に借方票を作成] チェックボックスをオンにすると、LN でオリジナル回収先取引先の借方票が作成されます。このチェックボックスがオフの場合、LN でオリジナル請求書が再計上されます。

LN で、次の入力を作成されます。

- ファクタリング会社に対する貸方票、およびファクタリング会社に対して振り戻される金額に対して、次のようになります。
 - 借方: ファクタリング請求書の偶発債務
 - 貸方: ファクタリング会社の顧客統制勘定
- オリジナル回収先取引先に対する借方票は、次のようになります。
 - 借方: 請求先取引先の顧客統制勘定
 - 貸方: ファクタリング請求書
 - 貸方: 割引および他の控除

借方票は請求で作成され、借方票用に定義された取引タイプが使用されます。次が借方票に対して適用されます。

- 借方票の期日を入力できます。
- 請求先取引先の支払条件が使用されます。請求書がすでに期日を過ぎているため、借方票には割引は適用されません。

-
- 請求書がファクタリングされた日から借方票の日付までの期間の実現為替差が計算され、[偶発債務勘定] と [ファクタリング請求書] 勘定に転記されます。

再計上された請求書に払い戻された金額も清算された金額もない場合は、LN で、訂正伝票だけが作成され、未決済入力にリンクされます。LN では、「偶発債務」勘定および「ファクタリング請求書」勘定への入力を振り戻す入力が行われます。

償還なしのファクタリング

ファクタリング会社への請求書の送付

請求書で償還なしのファクタリングを実行する場合、請求書をファクタリング会社へ送付すると、LN でオリジナル請求書がクローズされ、ファクタリング会社の新しい未決済入力を作成されます。ファクタリング取引はファクタリング会社への債権の販売を伴うため、新しい未決済入力の伝票タイプは [販売請求書] になります。

転記された金額はファクタリング会社からの正味債権額であり、請求金額-請求先取引先に適用するすべての控除額-請求先取引先に既存の貸方票金額になります。この入力では、ファクタリング手数料は控除として扱われません。

LN で、次の入力を作成されます。

- 借方: ファクタリング統制勘定
- 借方: 割引
- 借方: 延滞金利
- 貸方: 顧客統制勘定

オリジナル請求書の支払に税金が適用される場合、オリジナル請求書がクローズされると税額も転記されます。

LN で、次の入力を作成されます。

- 借方: 支払勘定科目の中間税
- 貸方: 売上税勘定科目

請求書の払戻

顧客がその他理由により支払をしなかった場合、請求書を払い戻して回収した前払をファクタリング会社へ払い戻すことができます。

請求書で償還なしのファクタリングを実行した際に、その分の金額をファクタリング会社から回収していない場合は、伝票を買い戻すことができます。この場合には、オリジナル請求書が再計上され、送付時に転記された割引とその他の控除が振り戻されます。ファクタリング会社に対して作成された請求書はクローズされます。

転記は次のようになります。

- 借方: 顧客統制勘定
- 貸方: ファクタリング会社統制勘定
- 貸方: 割引/延滞金利

レポートグループ

支払/回収方法 (tfcmg0140s000) セッションの [支払/回収レポートグループ] フィールドおよび [追加のレポート] フィールドに、支払または口座引落用に生成されたレポートやASCIIファイルを定義するレポートグループを入力する必要があります。

支払レポートグループ

支払に対して、次のレポートグループを使用できます。

- 1: 銀行オーダー
- 2: 銀行ファイル (Clieop)
- 3: 小切手
- 4: レポート & 送金銀行ファイル (Clieop)
- 6: レポートおよび送金銀行ファイル (ベルギークレジット銀行)
- 10: 小切手 - ドイツ式レイアウト
- 11: 手形
- 12: BankGiroCentrale ファイル
- 13: BACS レイアウト (英国使用)
- 14: ABN AMRO BTL91 フォーマット
- 15: 小切手 (アメリカ式レイアウト)
- 16: 銀行オーダー (ドイツ式レイアウト)
- 17: カナダの小切手
- 18: スペインの小切手「Carta Pagare」
- 19: ACH でフォーマットされたファイル
- 22: フランス用小切手出力
- 30: 銀行ファイル (Clieop EUR/NLG)
- 37: 外貨払用ベルギー銀行ファイル
- 44: DTA ファイル (スイス支払伝票)
- 48: BEF 国内払用ベルギー銀行ファイル
- 55: ETEBAC ローカル支払 (フランス式)
- 54: ZENGINKO 日本の銀行ファイルレイアウト
- 56: ETEBAC 海外支払 (フランス式)
- 57: 電子支払ファイル (イタリア)
- 58: 現行送金レイアウト (イタリア)
- 60: Norma ファイル 34 (スペイン)
- 62: Norma ファイル 68 (スペイン)
- 63: Norma ファイル 34-1 (スペイン)
- 65: PAYMUL 国内 (オーストリア)
- 66: PAYMUL 外国 (オーストリア)
- 70: SEPA 添付伝票
- 72: SWIFT 国内 (ブルガリア)
- 73: SWIFT 外国 (ブルガリア)
- 97: イギリス小切手
- 99: 小切手

回収レポートグループ

回収および口座引落用に利用可能なレポートグループは、次のとおりです。

- 1: 口座引落フォーム
- 2: 口座引落銀行ファイル (Clieop)
- 3: 手形フォーム
- 4: レポート & 送金銀行ファイル (Clieop)
- 5: 口座引落 (ドイツ式レイアウト)
- 20: 送金ファイル Ricevuta Bancaria Elettronica (RI.BA)
- 21: 送金ファイル Rapporti Interbancaria Diretti (RID)
- 22: 銀行送金ファイル Ricevuta Bancaria Elettronica (RI.BA)
- 23: 銀行送金ファイル Rapporti Interbancaria Diretti (RID)
- 24: 非滞在者顧客の送信ファイル (RI.BA)
- 30: 口座引落銀行ファイル (Clieop EUR/NLG)
- 32: Norma 32 (スペイン)
- 70: SEPA 添付伝票 (借方)

北欧用銀行ファイルのレポートグループ

北欧用銀行ファイルに対しては、次のレポートグループを使用できます。

- 7: Postgiro ファイル (スウェーデン式レイアウト)
- 8: Bankgiro ファイル (スウェーデン式レイアウト)
- 9: 銀行/振替ファイルのレポート (北欧式レイアウト)
- 23: ULMP '2499' (フィンランド)
- 24: LUM2 (フィンランド)
- 27: Norske 銀行 - 海外 (ノルウェー式)
- 28: Norske 銀行 - 国内 (ノルウェー式)
- 29: Sisu - 海外 (スウェーデン式)
- 32: Danske 銀行 - 海外 (デンマーク式)
- 33: BG 銀行 - 国内 (デンマーク式)
- 34: BG 銀行 - 海外 (デンマーク式)
- 35: Danske 銀行 - 国内 (デンマーク式)
- 36: PostGiro - 国内 (スウェーデン式)
- 38: LM2/Mertia 国内 (フィンランド式)
- 39: LM02/Leonia/国内 (フィンランド)
- 43: Bank Giro/国内 (スウェーデン式)
- 47: Uni 銀行/UTF9/国内 (デンマーク)
- 49: Merita 銀行ファイル (フィンランド)
- 51: Uni 銀行/UBT040/海外 (デンマーク)
- 67: Danske 銀行 - 国内 (ノルウェー)
- 68: Danske 銀行 - 外国 (ノルウェー)

手形レポートグループ

支払手形のレポートグループ

支払に対して、使用可能なレポートグループは次のとおりです。

- 1: 銀行オーダー
- 2: 銀行ファイル (Clieop)
- 3: スペイン式手形レイアウト
- 4: ポルトガル式手形レイアウト
- 5: フランス式手形レイアウト
- 6: レポート & 送金銀行ファイル (Clieop)
- 7: レポートおよび送金銀行ファイル (ベルギークレジット銀行)
- 8: Postgiro ファイル (スウェーデン式レイアウト)
- 9: Bankgiro ファイル (スウェーデン式レイアウト)
- 10: 銀行/振替ファイルのレポート (北欧式レイアウト)
- 11: BankGiroCentrale ファイル
- 54: 銀行勘定照合表 (日本)
- 60: Norma ファイル 34 (スペイン)

受取手形のレポートグループ

回収に対しては、次のレポートグループを使用できます。

- 1: 送金ファイル (RI.BA)
- 2: 送金ファイル (RID)
- 3: Norma 58 (スペイン)
- 4: スペイン式手形レイアウト
- 5: ポルトガル式手形レイアウト
- 6: フランス式手形レイアウト
- 7: 銀行送金 (RI.BA)
- 8: 銀行送金 (RID)
- 9: 手形フォーム
- 10: フランス式回収送金
- 19: Norma 19 (スペイン)
- 32: Norma 32 (スペイン)

バッチ

一括して処理される会計取引のグループ。バッチをファイナライズすると、すべての取引が処理されます。エラーが発生した場合、取引は処理されません。

適切なメニュー

コマンドは、[表示]、[参照]、および [アクション] メニューに分散されているか、ボタンとして表示されます。旧リリースの LN および Web UI では、これらのコマンドは [特定] メニューに配置されます。

参照

情報を参照するために使用される情報記述フィールドです。たとえば次の情報を参照することができます。

- 特定のタスクを実行する権限を持つ担当者または部署
- 取引先の窓口
- オリジナル請求書番号

請求バッチ

請求処理を行うオーダータイプとオーダーを指定します。請求バッチを実行すると、請求データが選択され、その請求バッチで指定したオーダータイプとオーダーに関する請求書が生成されます。

請求バッチテンプレート

請求バッチを実行するときに指定できるオーダータイプとオーダー数を定義します。たとえば、オーダーのタイプは「販売」、「輸送」、「プロジェクト」または「サービス」に設定でき、各タイプのオーダーの数は [なし]、[1 つ]、または [複数] に設定できます。

請求通貨

請求額の表示に使用する通貨

印紙税

手形に課せられる税金の一種。印紙税は、割合ではなく固定額で徴収されます。国によっては、手形に対する印紙税の支払はその手形の発行者に義務付けられています。

スペインや日本などの国々で印紙税を支払う場合は、収入印紙を手形証書に貼る必要があります。その他の国々で印紙税を支払う場合は、手形用の公式用紙を購入する必要があります。

支払伝票

必要に応じて、読取り可能な文書を請求書に添付して、請求額支払のため銀行宛てに送付することもできます。発注先銀行の口座番号、請求額、および請求書参照番号は、振込用紙に事前印刷されています。請求書に振込用紙を添付する場合は、その振込用紙を作成して請求書と一緒に印刷しておきます。

取引タイプ

伝票の識別に使用するユーザ定義の 3 位置コード。取引タイプにリンクされたシリーズは伝票に連番を付与します。

月次請求書

請求先取引先に送付する未決済の販売請求書の月次取引明細書。取引先が自己請求請求書を作成し、月次請求書を参照用に使います。

チェック

指定されたとおりに金銭を支払うように銀行に指示する指示書

保留理由

請求書の支払をブロックするために購買請求書に関連付けられるコード

税金コード

税率を識別し、LN でどのように税額が計算され登録されるかを決定づけるコード

支払方法

支払 (購買請求書) または入金 (販売請求書) の作成に使用される方法です。

支払方法には、次の項目などの詳細が定義されています。

- 最高額
- 期日
- 外国通貨を許容するかどうか、およびレポートに出力する必要のあるその他の詳細

これらはオーダまたは請求書上で変更可能なデフォルト値です。

支払条件

請求書の支払方法に関する合意事項

支払条件には、次の項目が含まれます。

- 請求書の支払を完了しなければならない期間
- 指定期間内に請求書の支払が完了した場合に保証される値引

支払条件によって、次の計算が可能になります。

- 支払期限の日付
- 値引期間が終了する日付
- 値引額

支払差額

請求額と支払額との差異。支払差額は、ユーザ定義範囲内にある場合、自動的に承認して償却できます。

VAT

付加価値税の頭字語。製品やサービスに対して、製造および流通の諸段階で課税される間接税

前払金/前受金

支払済額/回収額。請求書またはその他の伝票に割り当てることはできません。請求書が作成された後で、前払金または前受金をその請求書に割り当てることができます。仮払金/仮受金と違い、前払金/前受金に対しては税金の計算ができます。

銀行リレーション

会社の銀行口座。銀行リレーション定義には、銀行口座番号、勘定タイプ、国際銀行口座番号、銀行の通貨、他の通貨の使用可否、勘定科目がブロック口座かどうかなどの明細が含まれています。

手形

銀行手形、小切手、約束手形、為替手形などの支払手段の一般的用語。貸方が顧客まで拡張される場合、手形は現預金支払の代わりに使用できます。手形は、販売請求書の代替となります。手形は譲渡できるため、割引や裏書など貸方手段としても使用できます。

手形は、現地の商慣習や銀行標準に従い、紙と磁気のサポートによって使用されます。

支払合意

請求額の支払方法の定義の仕方。この合意には、請求額の一部に対してそれぞれ適用される支払方法および支払通貨が含まれます。

たとえば、請求額の初回支払を支払方法 PM1 に従って銀行経由で支払い、残余额の 40% を支払方法 PM2、残りの 60% を支払方法 PM3 に従って支払手形で支払うように、支払合意を定義することができます。

銀行手数料

銀行が取引を処理するために請求するコスト。銀行手数料は振替タイプによって異なる場合があります。たとえば、振替が異なる銀行間で行われるか、同じ銀行の支店間で行われるかによって異なります。さらに、銀行手数料は取引額の範囲によって変わります。

支払スケジュール

支払期間までに支払わなければならない金額に関する合意。支払スケジュールを支払条件にリンクできます。また、販売請求書と購買請求書にリンクすることもできます。

支払スケジュールの各ラインでは、特定の期間内に支払う必要のある請求額の一部、その支払に使用される支払方法、その支払に適用される値引条件を定義します。

注意

多くのセッションでは、「支払スケジュール」は支払スケジュールラインを表します。

出荷に対する回収を使用する場合、「支払スケジュール」は出荷を参照します。

同義語: 回収スケジュール

スタンディングオーダー

定期取引支払など、請求書がリンクされていないオーダー

ファクタリング

サードパーティ (ファクタリング会社) への会社の売掛金の販売で構成される、資金を得るための売掛金会計のフォーム。販売は勘定科目の値から割引されます。

顧客は販売会社を通じて直接または間接的にファクタリング会社に支払います。ファクタリングは償還ありまたはなしとすることができます。償還ありファクタリングの場合、顧客不払のリスクが会社に残ります。

現預金割当

受け取った支払金の未決済取引への割当

現預金予測

未来の日付の予定現金位置。現在の現預金額は全期間内の受取予定額により増額され、また支払予定額により減額されます。

出荷に対する回収

オーダー全体を対象とする請求額に対してではなく各出荷の承認済数量に対して個別に支払または入庫を行う方法

回収スケジュール

次を参照してください: 支払スケジュール (ページ 118)

会計オフィス

財務会社が企業単位よりも詳細なレベルで財務データを分類するために使用する部署

通常は、次のタイプの財務データを分類するために会計オフィスを使用します。

- マニュアル入力の販売請求書
- 手形
- 取引先の財務データ

財務会社内で、次の取引先役割に会計オフィスをリンクできます。

- 請求先取引先
- 回収先取引先
- 請求元取引先
- 支払先取引先

銀行口座

借方入力および貸方入力のレコード。特定の品目、人物、問題を含む取引がカバーされます。銀行口座は、番号により識別されます。

LN の設定により、銀行口座番号の入力時にその番号をチェックできます。口座番号のチェックに合格しない場合は、警告メッセージが表示されます。

為替交換レート

通貨基準の金額を計算するために、別の通貨の金額に掛け算する係数

同義語: 為替レート

為替レート

次を参照してください: 為替交換レート (ページ 119)

期日

支払または領収をすべき期限の日付を指します。

延滞金利

商品の数量や行われたサービスに対する請求率。特定の期間内に請求が支払われなかった場合、請求書の受取人は、この比率に基づく金額を支払う必要があります。

回収先取引先

支払側の取引先。通常、これは顧客の買掛金管理部署になります。この定義には、デフォルト通貨と為替レート、顧客の銀行関係、取引先に送付する督促状のタイプおよび督促状の送付回数が含まれます。

支払期間

請求日に加えられる日数または月数。その他の期日計算が適用されない場合、その請求書はこの期間内に支払う必要があります。

支払先取引先

支払先の取引先。通常、これは発注先の売掛金管理部署になります。取引先がファクタリング会社を利用している場合は、この定義には、デフォルト通貨と為替レート、発注先の銀行関係、請求の支払日数が含まれます。

SWIFT コード

国際銀行間データ通信システム (SWIFT) のルールに従った銀行の国際コード

同義語: 国際銀行 ID

国際銀行 ID

次を参照してください: SWIFT コード (ページ 120)

国別税金コード

各国に固有の税データの定義。税金タイプ (単一税または複数税)、所轄税務署、税率、特定の税金が適用される請求書に印刷する必要があるテキストなどがあります。

自己請求

取引先間での合意により、商品の入庫または消費を基準にして行われる、請求書の定期的な作成、照合、および承認。販売先取引先は、購買元取引先からの請求書を待たずに、商品に対する支払を行います。

仮払金/仮受金

請求書や他の書類に配賦不可な銀行勘定照合表上に現れる支払/回収。この支払は未配賦として登録されます。仮払金/仮受金は後日請求書に配賦されます。

償還

顧客の不払リスクが会社に残るファクタリングまたは手形割引のタイプ。会社の顧客が財務的に未払額を支払できない場合、ファクタリング会社または銀行はその金額を会社に対して償還します。

未決済入力

次を参照してください: 未決済請求書 (ページ 122)

取引分類

取引タイプを分類する方法です。振替仕訳、定期取引/振戻仕訳帳、購買請求書、および販売請求書があります。分類では、選択された取引タイプにリンクする取引の処理方法を定義します。

ファクタリング会社

会社の資金源。通常、ファクタリング会社は会社から売掛金 (販売請求書) を購入する銀行または商業金融会社です。

ファクタリング会社からの前払金

ファクタリング会社が会社に送る資金で、事前の送金、確認処理の完了後の送金、およびファクタリング会社が会社の顧客から支払を受領する前の送金があります。

オリジナル回収先取引先

オーダの請求先取引先にリンクされる回収先取引先

支払手形 (TNP)

一定期間後に未払額を支払う約束をとともに発注先に送付した約束手形または発注先から受け取った為替手形

頭字語: TNP

TNP

次を参照してください: 支払手形 (TNP) (ページ 121)

手形の割引

会社が資金を得るためにサードパーティ (通常は銀行) に受取手形を販売することから構成される売掛金会計のフォーム。手形の価値から割り引いて購買が行われ、正味の割引料と手数料は会社へ送金されます。

顧客は割引者に会社を通じて直接または間接的に送金します。割引は償還ありまたはなしとすることができます。償還あり割引の場合、顧客未払のリスクが会社に残ります。

手形を裏書するには

購買請求書を清算するために発注先に受取手形を振り替えること。振替は許可された署名者が手形に署名し、会社印を押して行われます。

受取手形 (TNR)

顧客から受け取った約束手形、または一定期間後に未払額を支払う約束により顧客により受け入れられた為替手形

頭字語: TNR

TNR

次を参照してください: 受取手形 (TNR) (ページ 121)

支払予定

完全に完了していない、または完了途上にある支払

次の支払予定を作成できます。

- 自動的に (たとえば小切手が自動支払手続きによって生成されたとき)
- マニュアルで (たとえば小切手が振り出されたとき)

反義語: 回収予定

支払予定

次を参照してください: 回収予定 (ページ 122)

回収予定

次を参照してください: 支払予定 (ページ 121)

回収予定

まだ完了していない入金

回収予定は次の方法で作成できます。

- 自動 (たとえば口座引落とし)
- マニュアル (たとえば小切手が振り出されたとき)

反義語: 支払予定

小切手マスタ

小切手が事前採番される機能。事前採番された小切手は後に支払手続きで使用されます。

ディメンションタイプ

元帳勘定に対する最大 12 の分析勘定基準の 1 つ

未決済請求書

未払請求書

同義語: 未決済入力, 未決済請求書

未決済請求書

次を参照してください: 未決済請求書 (ページ 122)

DAS 2

Déclaration annuelle des salaries (賃金/報酬の年次申告)。会計年度中にサードパーティに支払ったすべての支払のレポート。このレポートはフランス政府に毎年提出する必要があります。

会社 ID

銀行ファイルを電子処理するために、銀行が組織に割り当てる識別番号